

イギリスの高等教育における財務と政策

秦 由美子

目 次

1. はじめに
2. 高等教育拡大による一元化と公的財源の在り方
3. 学部学生の収入及び支出
4. 大学の財務
5. 結語

イギリスの高等教育における財務と政策

秦 由美子*

Budget, Funds and Financial Policy in the UK Higher Education

Yumiko Hada

1. はじめに

政府は、1991年5月に白書『高等教育—新たな枠組み (*Higher Education: A New Framework*)』を、続く1992年には継続・高等教育法 (Further and Higher Education Act 1992) を発表し、約30年続いたポリテクニク政策が変更される運びとなった。この変更には以下のことが大きく関わっている。パブリック及びプライベート両セクターの高等教育機関の間で教授する専攻や課程の違いがなくなるにつれて、ポリテクニクは大学に近い存在に変わっていったこと (Pratt 1997)、また、ポリテクニクに在籍する第一学位専攻及び準学位レベルを受講する学生数が、大学の学部学生数と同数あるいはその数を凌ぐようになったこと、これら2点である。

1992年まで政府は、あくまでもパブリック・セクターとプライベート・セクターの各高等教育機関のミッションは異なるとする見解を固持していた。それぞれのセクターも二元構造がイギリスの高等教育政策の基本構造であるとして互いに干渉することがなかった。しかし、白書では機関の一元化が提案され、その結果、二元構造の一端を担ってきたパブリック・セクターの准大学高等教育機関は「大学」¹という名称を付けることが可能になり、連合王国の大学数は1960年代の39機関から2002年には約120機関にまで増加することになった。パブリック及びプライベート両セクターの統一により大学という名称を得た准大学高等教育機関は、他大学との競争の下、遂に教育面のみならず研究面においても公衆の期待を担い得る可能性を獲得したといえる (秦 2001)。ただし、制度上の昇格を果たしたその裏で、パブリック・セクターとプライベート・セクターの統一が一大学当たり

の公的補助金の配分額の減額と学部学生からの授業料の徴収が必要となる事態を招くことになった。一元化は高等教育機関に多くの変化をもたらした。その中でも大学の財務に関しては、新大学の出現に対応してパブリック及びプライベート両セクターのために統一された補助金配分機関が創設されたことに大きな意味がある。一元化以前は、大学と准大学高等教育機関の社会での役割、目的、規模やレベルの違い等によって、両高等教育機関の補助金配分額の格差は当然のこととして学内外で受け止められていた。しかし、一元化後の補助金配分機関の統一は、この補助金配分額の格差が

* 広島大学・高等教育研究開発センター 准教授

撤廃されたことを意味する。そのため、一元化以前に存在していた配分額の格差を是正し、公正かつ適切な配分を実施すること、また、補助金配分に関する透明性と説明責任が配分機関に求められることになった。

そこで本論稿では、第一に新大学の出現に対応してパブリック及びプライベート両セクターのために統一された補助金配分機関が行った補助金配分が、両大学に与えた影響を論ずる。これには、研究費補助金と教育費補助金等新・旧両大学の財務上に果たす役割も含まれる。というのも、両補助金の在り様が新・旧両大学の役割分担にも影響を与えているからである。

第二の検討課題は、授業料徴収の開始という事態がもたらした変化である。高等教育人口の量的拡大による公費負担の増加に対し、政府は授業料を徴収することで対応しようとした。この授業料徴収が学生に与えた影響を明らかにすると共に、さらなる高等教育人口拡大のための政府による学生支援策を紹介する。以上を受けて、学生から徴収する経費との関連で予測される将来起こりうる問題について言及する。

2. 高等教育拡大による一元化と公的財源の在り方

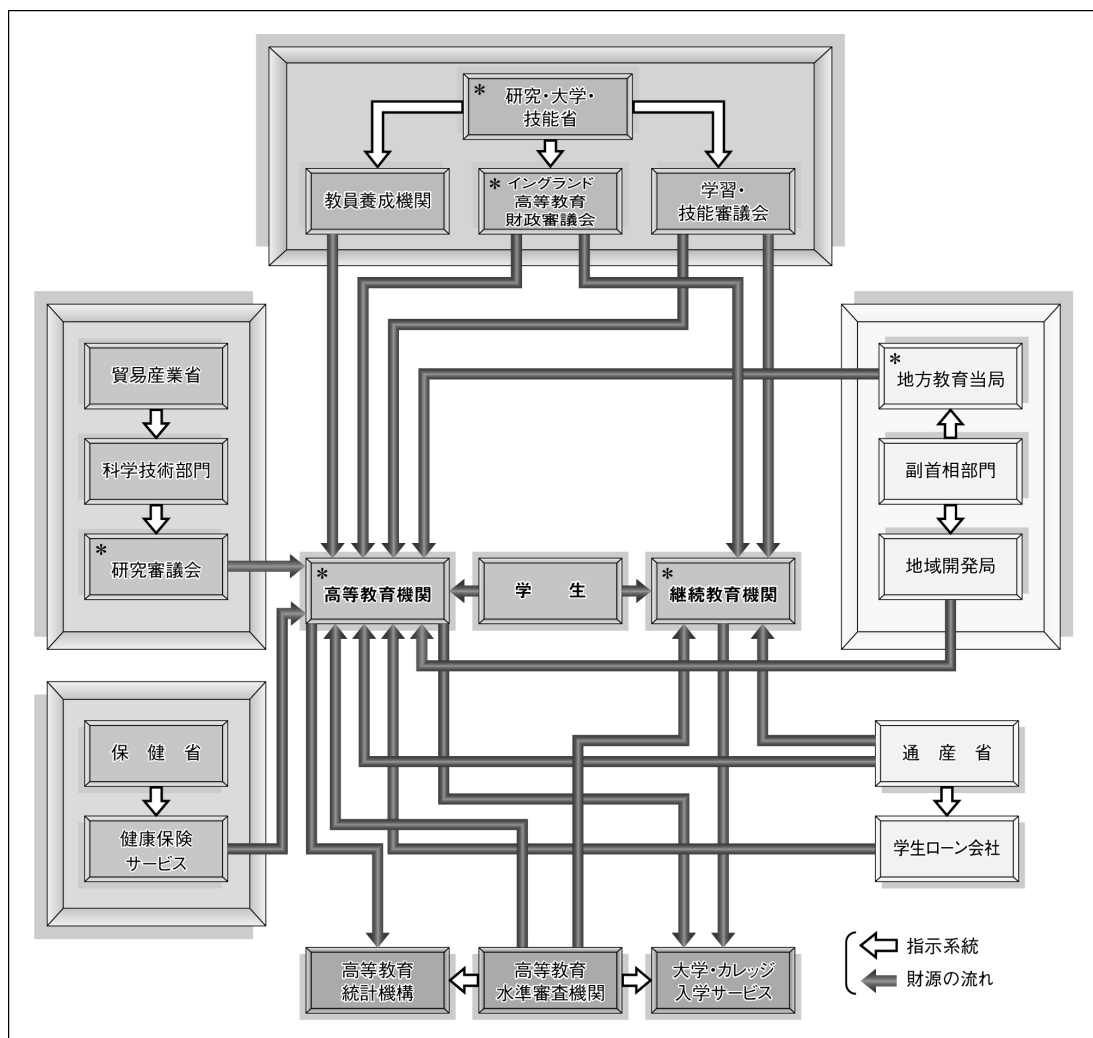
2. 1 高等教育機関の補助金配分機関

まず高等教育機関の財源問題及び高等教育機関の管理運営を分析する際に必要となる、高等教育機関と他の機関との相関関係図を示す(図1)。高等教育機関はこれら全てのステークホルダーと関係し、相互に影響を与えあっている。

本節では、図中の機関の中でも星印をつけた機関、研究・大学・技能省 (Dept for Innovation, Universities and Skills: DIUS)、高等教育機関 (Higher Education Institutions: HEIs)、継続教育機関 (Further Education Institutions: FEIs)、イングランド高等教育財政審議会 (Higher Education Funding Council for England: HEFCE)、研究審議会 (Research Councils: RCs)、地方教育当局 (Local Education Authorities: LEAs) を中心に論ずる。なお、黒の太字の矢印は財源の流れと方向性を示し、白抜きの矢印は指示系統を示している。同系色の枠で囲った部分は、同系列の関連部署を意味する。例えば、一番上の枠の機関は教育・大学・技能省 (DIUS、現ビジネス・改革・技術省: BIS) の管轄下にある機関である。

パブリック及びプライベートの両セクターは、一元化以前はそれぞれ独自の補助金配分システムで動いてきた。研究費補助金に関しては、大学への補助金額がポリテクニクのそれに比べて多額であり、学科間での配分比率も両セクターでは著しく異なっており、一元化後の配分比率も含めた補助金額の統一に際しては容易に妥協点が見出されなかった。そのため、政府による統一されたセクター用の補助金機関を組織化する際には困難を伴った (Williams 1992)。しかしながら、1992年の継続・高等教育法後には4つの高等教育財政審議会 (Higher Education Funding Councils: HEFCs)²が新・旧両大学の補助金配分を実施する任を負うことになり、パブリック・セクターにあった高等教育課程を提供する継続教育カレッジ (Further Education Colleges: FECs)³も、直接HEFCsから補助金配分されるか、あるいは高等教育機関が継続教育カレッジと契約し、期間限定のフランチャイズという

図1 高等教育機関と他機関との組織相関図と財源の流れ

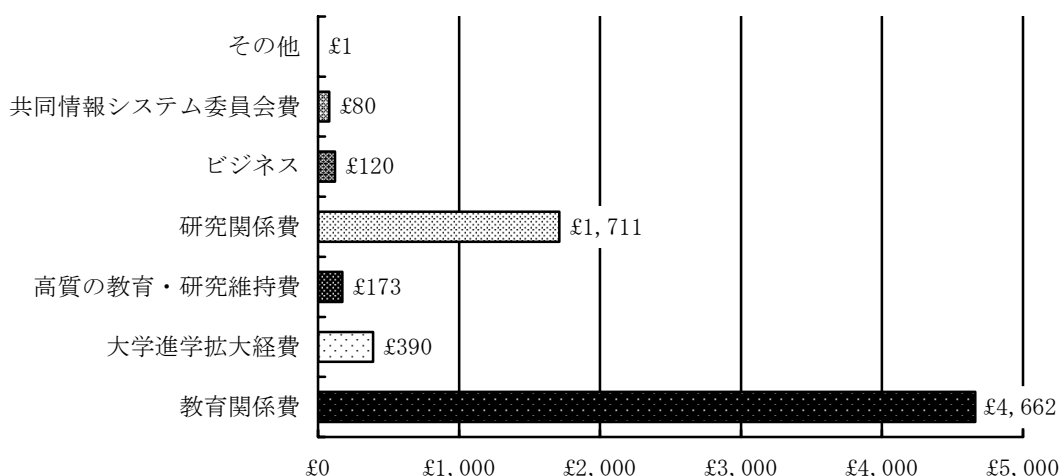


補助金は115の大学と17の高等教育機関、そして高等教育レベルのプログラムを提供している221の継続教育機関に配分されることになっている。HEFCE が政府や議会に説明責任を有するように、各高等教育機関も HEFCE と議会に説明責任を負っている (HEFCE 1996)。

1996年当時は高等教育を受ける人口の拡大、高等教育の機会均等や多様性、各高等教育機関の経営戦略の向上等が主眼点であり活動内容に具体性が欠けていた (HFECE 1996)。しかし、次第に教育よりも研究に焦点が当てられるに従って、HEFCE の活動範囲も拡大され、研究評価 (Research Assessment Exercise: RAE) 結果に結びついた補助金の研究大学への集中化が政策的に図られるようになった。更に、科学技術の補強、国際競争力の強化等が盛り込まれた結果、科学技術関連への配分も増額された。また、1992年以降の新大学に多く見られる応用分野への補助金配分も明示された。他に、1996年当時と比較して、政府や社会への説明責任と地域社会への貢献や財源の有効利用にも重点が置かれ始めた (HEFCE 1999)。

高等教育機関に配分された総額160億9,500万ポンドの内、2007/08年度の HEFCE からの交付金は総額71億ポンドで全体の約44%となっている。その内訳を示すと下記のグラフ1 になる。

グラフ1 イングランド HEFCE 交付金 (2007/08年) (単位: 100万ポンド)



出典: HEFCE. *Who we are and what we do*. Bristol: HEFCE, 2007: 6. を基に作成

2001年のRAE 後には、教育技能省 (Department for Education and Skills: DfES) が高等教育白書である『高等教育の将来 (*The future of higher education*)』(DfES 2003) を発表した。ウェールズとスコットランドでは補助金を全ての高等教育機関に均等に配分するという平等主義を維持する政策が採られているが (マクネイ 2005)、白書の中では、「高度の研究を実施していると評価された高等教育機関に研究費補助金を集中させ、それらの機関を国際的に極めて高いレベルの機関になるよう支援する」ことが建議された (DfES 2003: 23-24)。HEFCE は政府からの通達を受けてこの提案に即した高等教育機関への配分方法の開発に着手した。効率性や対価価値を求めた結果が、上位研究大

学への研究費補助金の集中化であったとするならば、研究分野では後れを取っていた新大学にとって、研究費補助金の獲得は厳しく、新大学にとって中央政府のこの決定は負の要素であったと考えられる。

2. 2 高等教育財政審議会からの研究費補助金

表1は、上位10大学の最新（2008年度）の評価結果である。2008年度は2001年度と比べ、どの大学も実働研究者数の増加が目立つ。例年通りヨーク（York）大学とエセックス（Essex）大学⁴を除き、ラッセル・グループ⁵の大学が上位を占める結果となった（表1）。新大学の名前がリストに現れるのは45位である。

新大学であるポーツマス大学の副学長（Vice-chancellor）⁶のクレイブン（John Craven）は、新大学の研究費補助金の獲得状況がよくないこと、また、研究施設、設備や研究資金の不足がその状況を招いていることを例証しながら、次のような意見を述べた。

表1 2008年度のイギリスの大学研究評価結果（1位から10位まで）

大 学 名	評価の 平均	5, 5*取得 割合 (%)	3 以上取得 割合 (%)	2, 008 年度 実施研究者 数 (FTE)	2, 001 年度 実施研究者 数 (FTE)	RAE を受 けた UoA の総数
ケンブリッジ (The University of Cambridge)	2. 975	32. 0	71. 2	2040. 39	1826. 1	48
オックスフォード (The University of Oxford)	2. 959	31. 8	70. 3	2245. 83	2023. 83	48
LSE (London School of Economics & Political Science)	2. 957	34. 9	68. 4	490. 36	431. 57	14
インペリアル・カレッジ・ロンドン (Imperial College London)	2. 943	25. 8	72. 9	1224. 57	1171. 28	21
ユニヴァーシティ・カレッジ・ロンドン (University College London)	2. 844	26. 6	65. 8	1792. 68	1745. 7	47
マンチェスター (The University of Manchester)	2. 823	23. 1	65. 4	1824. 34	1204. 14	53
ウォリック (The University of Warwick)	2. 799	21. 3	64. 9	966. 35	714. 33	28
ヨーク (The University of York)	2. 780	22. 6	62. 0	653. 87	554. 06	25
エセックス (The University of Essex)	2. 772	22. 1	62. 9	322. 02	313. 87	14
エディンバラ (The University of Edinburgh)	2. 747	22. 5	62. 8	1639. 81	1365. 29	39

出典: Guardian. *RAE 2008: results for UK universities: Rankings for UK universities in the Research Assessment Exercise 2008*. 18 December 2008, London: guardian. Available from <http://www.guardian.co.uk/education/table/2008/dec/18/rae-2008-results-uk-universities>; Internet; accessed on 10 April 2009.

註: UoA は、Unit of Assessment（研究評価の単位）の略。実施研究者とは、積極的研究従事者（Research Active Staff）のことを指す。また、研究評価結果は最低1から最高5*までの7段階である。

「・・・(高等教育) 機関の教育・研究の質が良いと判定された場合に、その機関は (さらなる) 補助金が必要なのでしょうか。・・・(中略)・・・(それよりは) あまり質が良くない機関に教育・研究の質を向上させるための補助金を与えて支援することの方が重要なのではないでしょうか」(秦 2001: 158)

研究評価単位 (Unit of Assessment) である専門分野の伝統的学問分野、理論科学や古典、人文社会科学系では旧大学が強い。応用系に分類される分野、例えば会計学や財政学、あるいはコミュニケーションなどに代表される新分野ではラッセル・グループ以外の大学も上位を占めるが、上位を占める分野の数は少ない。また、新分野でも資本金のある研究大学でなければ実施できない分野も多数あり、その場合は旧大学が上位を占有することになる。発展途上国に関する学際的な研究分野である、開発研究 (Development studies) はその一例として挙げられる。

1992年には初めて新大学において研究評価が実施されたが、研究基盤がまだ確立されておらず、

表2 1997/98年度の研究評価による研究費補助金総額のトップ20高等教育機関

高 等 教 育 機 関	研究費補助金総額 (100 万ポンド)
オックスフォード	172.3
インペリアル・カレッジ・ロンドン	164.7
ケンブリッジ	153.9
ユニヴァーシティ・カレッジ・ロンドン	153.5
エディンバラ	90.1
マンチェスター	83.5
キングズ・カレッジ・ロンドン	81.3
リーズ	78.1
バーミンガム	78.0
グラスゴー	68.3
サザンプトン	68.2
シェフィールド	68.2
ノッティンガム	63.8
ブリストル	63.3
ニューカッスル	57.5
リヴァプール	53.5
クイーン・メリー (ロンドン大学)	40.3
ウォリック	39.7
クランフィールド (ウェールズ大学カレッジ連合)	38.3
カーディフ	37.5

出典: HEFCE. HEFCE Circular 6/97, Table 1 Recurrent Grant for Academic Year 1997-98. Available from http://www.hefce.ac.uk/pubs/hefce/1997/c6_97/t1.htm; Internet: accessed 10 June 2009.

旧大学とは別の基準で評価が行われた。新大学が旧大学と同じ基準で初めて研究評価を受けた年は1997/98年度で、その研究評価結果に基づく研究補助金の配分は表2で示す通りである。上位20位までの高等教育機関は、クイーン・メアリー・カレッジとクランフィールド・カレッジ（どちらも旧大学相当）を除き、全てラッセル・グループ所属の機関であった（表2）。

表2の上位4つの高等教育機関が HEFCE からの研究費補助金総額の91.5%を占めた。研究費補助金の集中化を進める政策により、新・旧合わせて約200の大学の内、4の旧大学の獲得額が補助金総額の91.5%を占めており、新大学が多額の補助金を獲得する可能性は少ない。旧大学が RAE に参加しない特殊な分野で新大学が補助金を獲得することは可能であるが、研究参加人員の総数が少ないために多額になるとも考えられない。しかし、ここで喚起すべき点は、1997/98年度の HEFCE からの補助金総額が34億500万ポンドで、その内訳は教育費補助金が23億8000万ポンド、研究費補助金は7億400万ポンド（他、3億600万ポンドが算定外補助金で1,500万ポンドは補助費）と、総額の20.7%に過ぎない額であったことである。政府は、研究偏重の弊害が進むことを危惧し、教育費補助金に関しても補助額を増加し、補助金の適用範囲を広げた。例えば、優れた教育を支援する目的として導入された新大学を中心としたアクセス・ファンド（Access fund）や職員の資質向上を目指す訓練も含めた人的管理への補助金等である⁷。この種の非競争的教育費補助金が、少なくとも新大学にとっては必要となってくるはずである。

2. 3 高等教育財政審議会からの教育費補助金

18年間続いた保守党政権からブレア労働党政権に交代する直前に公開された『デアリング報告書』⁸は、英国政府の諮問機関として発足した高等教育制度検討委員会（National Committee of Inquiry into Higher Education）が、1997年の時点で、今後20年間におけるイギリスの国家的必要性に適う高等教育のあり方を調査・検討した結果をまとめたものである。この報告書はイギリスの高等教育に大きな転換をもたらし、『ロビンズ報告書』以降に提出された報告書の中でも最重要のものと考えられている（Watson and Taylor 1998、Watson 2007）⁹。

『デアリング報告書』の結論を要約するならば、「国際的な経済競争の時代において、継続的な高等教育の拡充こそがイギリスの繁栄と国際的地位を確固たるものとなす」ということになる。本報告書が提出された背景には、高等教育への公的財源が今後も不足するであろうという共通認識がある。そのため、高等教育を受ける学生数の増加の結果、高等教育を維持する財政面での余裕がなくなり、学生一人当たりの教育予算が大幅に減額されるであろうという認識も生じる。

しかし、政府からの補助金額の抑制が迫られながらも、政府からの予算が配分される限りにおいては、大学は世界最高水準の研究を行うことで、国民に恩恵をもたらすと同時に国に貢献する責任があるという発想が、本報告書の基調となっている。

高等教育機関におけるフルタイム学生の増加率を考えると、一元化直前の1990/91年度から一元化後の1994/95年度の増加率は1.54倍（海外留学生も含む）となり、1994/95年度から1997/98年度の増加率は1.46倍になった（Office for National Statistics 1997: 64）。表6.3では物価指数の調整済みの学生一人当たりのユニット・コストが一元化直後から1997/98年度まで示されているが、学生数の増

表3 学生一人当たり支出する政府予算 (単位: ポンド)

	1993/94 年度	1994/95 年度	1995/96 年度	1996/97 年度	1997/98 年度
ユニット・コスト	5,545	5,390	5,145	4,815	4,720
変化率	100	97	93	87	85

出典: DfEE. *Departmental Report: The Government's Expenditure Plans 1996-97 to 1998-99*. London: DfEE, 1999: 114.

註: 変化率は1993/94年度を100として換算する。

加に伴う財源が不足し、フルタイム学生一人当たり支出する政府予算が年を追って減少している(表3)。2000年度にはユニット・コストが30%も減少することになった(Jackson 2001)。

『デアリング報告書』では高等教育の発展のために93の勧告事項が挙げられている。その中で主な勧告は以下の9点とされている(Watson 2007: 5)。

1. 高等教育人口拡大の促進
2. イギリスの学位水準の質と保証
3. 情報工学の活用
4. 短期的観点からの公的予算配分への警告
5. 教授法の高度化
6. 研究のための新たな資金源の獲得
7. フルタイム学部生からの授業料1,000ポンドの徴収
8. 地域と政府との高等教育の役割分担
9. 高等教育機関の産業界での役割強化

『デアリング報告書』の勧告を受けて、政府は評価に基づいた補助金配分制度の強化による補助金の集中化、無償から有償への大学教育の転換、学生ローン制度の導入、産学共同研究を実施すると共に、学生の就職に有利な技能証明となることを目的として「応用準学位 (Foundation degree)」を導入した(DfEE 1998)。

イギリス国内の全高等教育機関の財務収入の内訳を詳細に比べると表4となる。

表4 高等教育機関の収入 (単位: 千ポンド)

	2003/04年度	全体の中での割合 (%)
①HEFCsからの補助金	6,427,994	39.0
②授業料及び教育費補助金、コントラクト	3,772,166	22.9
③研究審議会(RCs)からの補助金	2,714,591	16.5
④その他収入	3,320,439	20.2
⑤寄附及び投資による収入	236,438	1.4
合 計	16,471,628	100.0

出典: HESA. *Resources of Higher Education Institutions 2003/04*. Cheltenham: HESA, 2005: 10.

HEFCs からの補助金の内訳は下記表 5 となる。

表 5 ①HEFCs からの補助金の内訳 (単位: 千ポンド)

	2003/04 年度	全体の中での割合 (%)
教育費補助金	4, 393, 791	68. 4
研究費補助金	1, 300, 488	20. 2
その他	575, 226	9. 0
建造物補助金	85, 962	1. 3
設備補助金	72, 527	1. 1
合計	6, 427, 994	100. 0

出典: HESA. *Resources of Higher Education Institutions 2003/04*. Cheltenham: HESA, 2005: 11.

2003/04年度において HEFCs からの総額の68.4%に相当する43億9,379万ポンドが教育費補助金額で、それぞれの高等教育機関はこの HEFCs からの補助金に加えて授業料37億7,216万ポンドを教育費として受け取ることになる。つまり、教育のための公的資金の総額は、研究費補助金の総額の3.4倍で、RAE が導入されたといってもその RAE に連動した競争的資金の総額は2004年度では全体額の約2割(18%)に留まる。

そして、教育費補助金の約55%は学生数を基に配分されるが、各大学への配分は各高等教育機関の在 student 数、就学形態、専攻分野、機関の性質等を総合して決定された配分算定式に従うことになる。残りの約18%は算定外補助金で、特別補助金 (special funding) や特別資本経費補助金 (earmarked capital funding) がそれに相当する。全大学は学生数に応じて予算を得ることで大学教育は機能していくことになるため、この教育費補助金の果たす役割は大きい。

その一例として、学生総数約4,000名の小規模大学であるハーパー・アダムズ・ユニヴァーシティ・カレッジ (Harper Adams University College) 大学を挙げることができよう。当該大学は55%を HEFCE から教育費補助金として、18%を授業料から得ており (Harper Adams University College 2008: 4)、政府からの財源が占める割合は大きい。2007/08年度の教育評価ではケンブリッジ大学を抜いて第一位の評価を獲得している。機関が小規模である場合、規模の経済が働かないというデメリットが容易に予測される。しかしながら、教育学部長補佐のタッピン (Emma Tappin) は、「中・小規模大学において政府からの予算は充分であるのか、また、他大学と統合は考える必要がないのか」という問いに対しては、大学収入内訳の約50%が HEFCE からの補助金であり、教育のための資金は潤沢にあること、また統合や学部縮小も考える必要がない、と答えている¹⁰。

教育費補助金予算への配慮は政府の関心事の一つでもある。『デアリング報告書』では、少なくとも補助金の60%は「機関への一括補助金配分システムから学生を中心に配分されるシステムに移行する (We recommend to the Government that it shifts the balance of funding, ...from block grant towards a system in which funding follows the student, ... (NCIHE 1997, Recommendation 72)」ことが勧告された。勧告を受けた政府も学生数を基本とした財源配分の重要性を認めており、その結果、高等教

育予算の約6割が学生数を基に教育費補助金として各高等教育機関に均等に配分されることになった。『デアリング報告書』に集約された高等教育機関の総意が、政府の政策の方向性を決定づけたことになる。

他に教育特別補助金として、学生数が増加している特定学科には、その学生数に応じて補助金がさらに加算されることになり、高額な運営資金が必要な研究大学以外の高等教育機関にも補助金が重点配分されることになった（表6）。『デアリング報告書』の勧告に従い、教育費補助金の重点化が進んでいる。

表6 HEFCE による国庫補助金の内訳（1997年及び2004年）（単位：100万ポンド）

	1997 年	2004 年
教育費補助金	£ 2,380 (69.9%)	£ 3,286 (54.8%)
研究費補助金	£ 704 (20.7%)	£ 1,081 (18.0%)
教育特別補助金 (special funding)	£ 321 (9.4%)	£ 486 (8.1%)
特別資本経費補助金 (earmarked capital funding)		£ 584 (9.7%)
予備費		£ 16 (0.3%)
合 計	£ 3,405	£ 5,453

出典：HEFCE. *Funding higher education in England in 1997-98, 1999 & Funding higher education in England in 2004-05, 2006.*

教育費補助金の中の算定外補助金として配分される教育促進特別経費の0.9%、研究促進特別経費の0.4%、大学進学促進特別経費の0.4%が、教育評価結果を基に配分額が決定されていることも看過することはできない。1993年に HEFCE において初めて教育評価が導入された時点では、教育を評価することの困難さ故に教育評価と教育費補助金配分は連動しないとされており、政府も教育評価に教育費補助金を直結させないと明言していた (Clark 1997¹⁾)。それにもかかわらず、総額中1.7%と僅かではあるが、教育費補助金においても競争的資金が導入されたのである。この比率は年を追って上昇しており、それに伴って額も増加し、遂に2004年には教育費補助金の中の特別算定補助金や特別資本補助金が、研究費補助金（10億8,100万ポンド）を上回る10億8,600万ポンドが競争的資金として配分された。1997年の3.4倍の額（10億8,600万/3億2,100万）である。

2. 4 高等教育機関における公的補助金

労働党が政権を取った後である2000年以降の政府予算を支出分野別に調べると、政府予算がもっとも配分されている分野は社会保障で、次いで医療、その次に教育であった。2000年はこの3分野で総予算の54.9%、2006年は62.7%を占めている（表7）。また、教育に支出された経費を取り上げると、2000年は12.4%、2006年は13.2%と増加している（表7）。

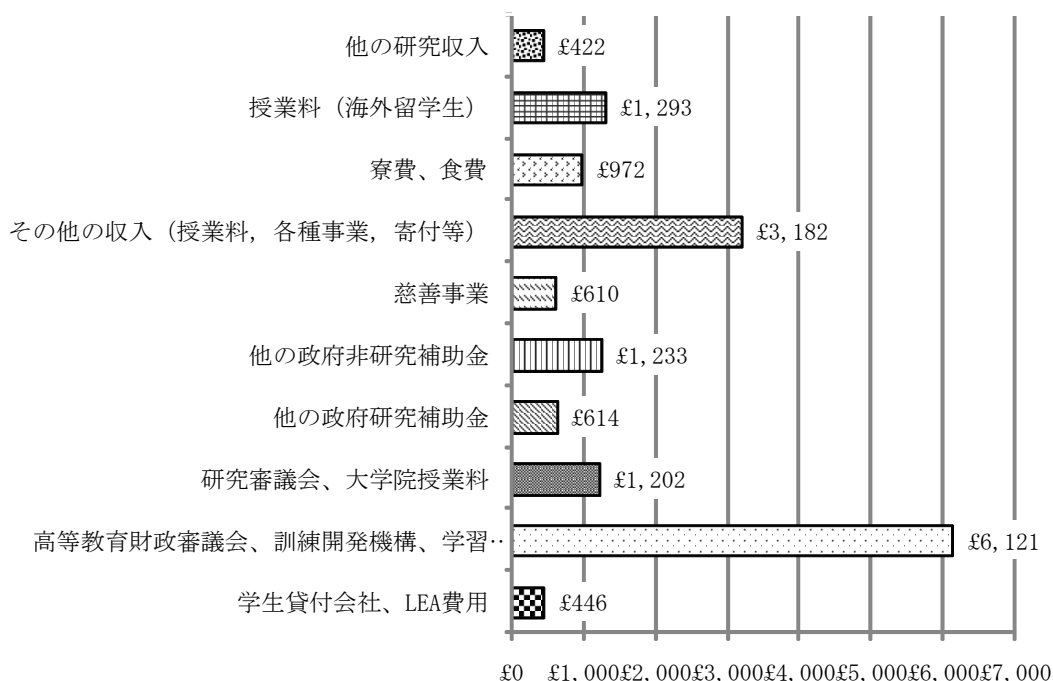
表7 支出分野別政府予算（国と地方の合計）（単位：10 億ポンド）

	2000 年	2001 年	2002 年	2003 年	2004 年	2005 年	2006 年
教育 ¹²	46	50	54	59	63	68	73
社会保障 ¹³	103	122	130	150	160	169	177
医療	54	59	65	72	81	90	96
国防	23	24	24	26	27	28	29
産業・農業等	15	16	17	16	20	20	21
住宅・環境	14	18	20	20	17	16	19
運輸	9	10	14	15	16	20	21
法令・保護関連	20	23	24	27	29	31	32
債務利払い	28	23	21	22	25	26	27
その他	59	49	49	47	49	49	57
合計	370	394	418	456	488	519	552

出典：HM Treasury. *Budget summary leaflet* (2000 年～2006 年). London: HMSO.

グラフ 2 は、2005/06 年度に高等教育機関に配分された総額160億9,500万ポンドの内訳である。

グラフ 2 高等教育機関の財源（2005/06 年）（単位：100万ポンド）



出典：HEFCE. *Who we are and what we do*. Bristol: HEFCE, 2007: 7. を基に作成

その内訳は74%が教育・学習活動費用と研究のための整備や施設維持費用であり、10%が研究審議会（RCs）を通して配分される研究費用、16%がフルタイム学部生の授業料支援費用であった。高等教育機関の収益部分としては総額46.4億ポンドの授業料が挙げられる。そのうち15億ポンドは海外留学生の授業料である。この海外留学生が支払った授業料の総額は機関の全収入の23.7%に相当する。他に、高等教育機関は継続的専門資質向上開発（Continuing Professional Development: CPD）や継続教育（Continuing Education: CE）の教授のために機関外部から4億ポンドの補助金を得ている。そのうち2億8,500万ポンドは雇用者である企業から、そして残りの1億1,500万ポンドは個人からの寄付によって得ている。しかし、この4億ポンドは2005/06年度の全収入の6%にも満たない（HEFCE 2007）。雇用者側からの資金援助は、今後も余り期待できず、海外留学生からの授業料の重要性が高まるものと考えられる。一方で、HEFCE からの研究費補助金（前年比の3.7%増）や、科学技術部（Office of Science and Technology: OST）からの研究費補助金の大幅な増加（前年比8.8%増で、HEFCE からの補助金9億9,000万ポンドに対し、OST からの補助金は6億6,400万ポンドにまで増加）、知識移転のための補助金の拡大、そして政策的に計画された教授・学習に対する補助金額の増加が見られる。

新・旧両大学や高等教育カレッジ・研究所が収入総額の中で公的補助金に何パーセント依存しているか、あるいは何パーセント外部資金を獲得できているかを調べることは、大学と政府との関係性や大学の自治を考える上で不可欠である。そこで、2000/01年度のイングランドに限った旧大学66校と新大学41校及び高等教育カレッジ・研究所（Institute）の財源の内訳を比較する。

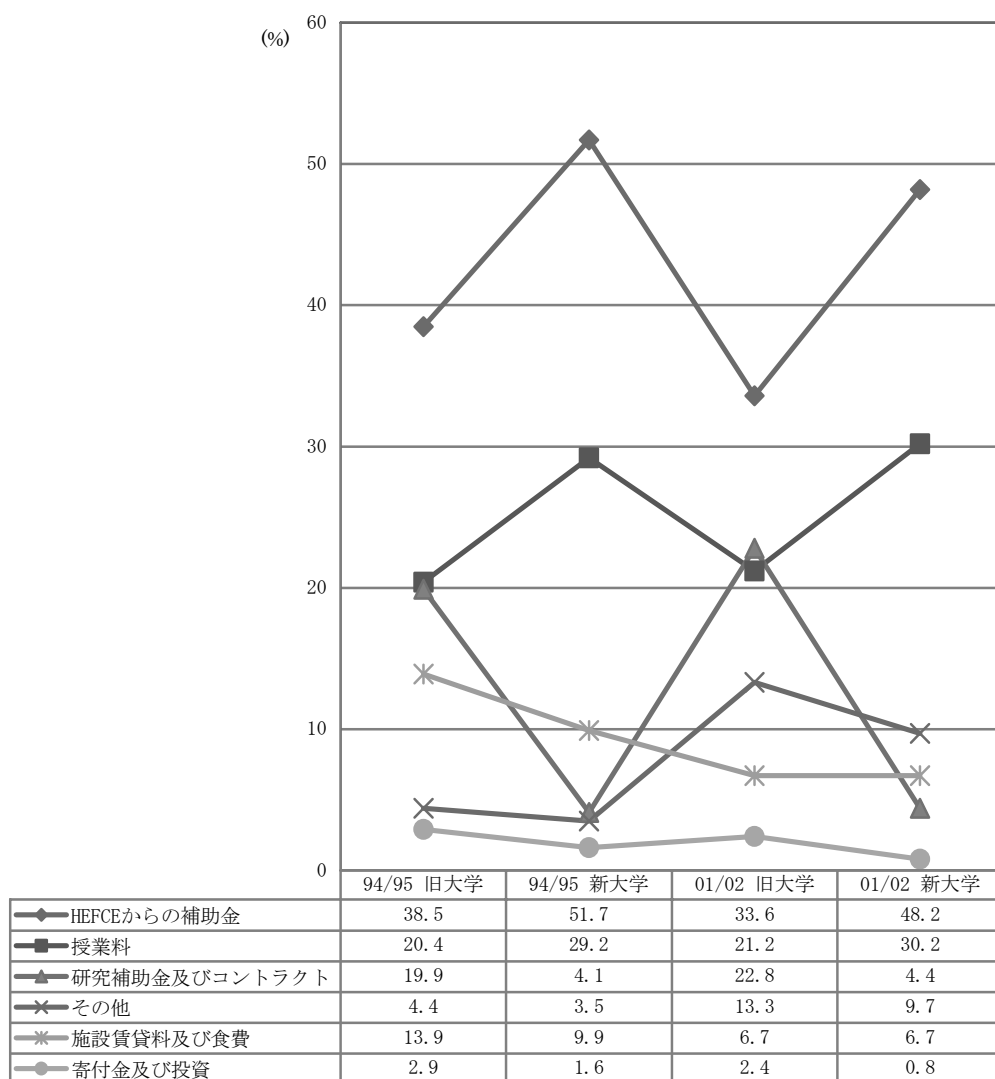
新大学はどの収入源からの収入も旧大学より少ない。そのうえ、約50%を HEFCE からの補助金に頼っており（表8）、公的補助金への依存度は高い。高等教育カレッジや高等教育研究所は HEFCE からの補助金が収入総額の54.1%を占め、新大学以上に公的補助金に依存している。それに比べて旧大学では公的補助金の占める割合が2001/02年度には33.6%に減少しており、64%であった1980年代と比べて依存度が低くなっている。このことは大学の自律性を考える上で大きな意味を持つ。

表8 各高等教育機関の合計収入内訳合計 （単位： 千ポンド）

	HEFCEからの補助金	授業料	研究補助金及び コントラクト	その他	施設賃貸料 及び食費	寄付金 及び投資	合計
2001/02 年度							
旧大学	2,707,272	1,707,976	1,833,284	1,073,698	540,517	192,233	8,054,980
割合	33.6%	21.2%	22.8%	13.3%	6.7%	2.4%	100.0%
新大学	1,631,637	1,022,188	146,657	328,369	227,321	25,474	3,381,646
割合	48.2%	30.2%	4.4%	9.7%	6.7%	0.8%	100.0%
1994/95 年度							
旧大学	1,880,032	993,639	973,620	213,968	678,240	140,129	4,879,628
割合	38.5%	20.4%	19.9%	4.4%	13.9%	2.9%	100.0%
新大学	1,234,178	695,438	97,270	82,873	237,322	38,163	2,385,243
割合	51.7%	29.2%	4.1%	3.5%	9.9%	1.6%	100.0%

出典：HESA. Resources of Higher Educational Institutions 1994/95. Cheltenham: HESA, 1996.及びHESA. Resources of Higher Educational Institutions 2000/01. Cheltenham: HESA, 2002.を旧大学と新大学に分類し、集計した表。

グラフ3 一元化前・後の大学財政の変化



HEFCE と TTA からの補助金は政府の政策に従って今後も変動するであろう。そのため、HEFCE と TTA 以外からの大学運営資金を獲得する方策を各大学が模索している。公的補助金以外からの資金源の獲得が、各大学の将来的な発展に繋がると考えているからである。その中でも特に大学に直接関わってくる収入源としての学生からの授業料が重要な意味合いを持ってくるのである。

3. 学部学生の収入及び支出

3. 1 1970年代末までの学生への公的財政支援

1938/39年度当時学生総数は5万人程度であったが、大戦中の1944/45年度には37,839名にまで減

少した。その中でも政府からの奨学金を受けているのは年間360名程度のフルタイム学生に過ぎず、寄宿生に対する地方教育局（Local Education Authorities: LEAs）の奨学金も少額であった。寄宿生のためのLEAの奨学金は、中等教育修了成績が優秀かつ大学入学が決まっている学生に対して主に配分された。しかし、政府からの奨学金も授業料（fee）は支払えるものの日常経費（maintenance costs）までは賄えず、学生は主に卒業後就職した後に返還するローンで学生生活を送っていた。1946年からは優秀な成績で大学入学資格を得た学生の大部分に授業料と日常経費双方に相当する政府の奨学金が配分されるようになった（Gordon, Aldrich, and Dean 1991）。この時に至って、教育省（Ministry of Education）の助言のもと、LEAが適正かつ公正な審査により奨学生を選抜するシステムが整うことになった。フルタイム（サンドイッチ学生¹⁴を含む）学生でかつ第一学位専攻の学部学生を対象に授業料と生活費の両面が支援され、1951年までには奨学金が支給された学生の約80%に対して日常経費全額の給付も実施された。学生の財政支援制度を長期的観点から考える委員会であるアンダーソン委員会（Anderson Committee）¹⁵が1960年5月に設置された。アンダーソン委員会が勧告したことは、大学入学を許可されたフルタイムの第一学位課程の学生に対して、授業料だけではなく日常経費も全額保障するということであった。その提案を受けて、1962年の教育法では国家政策の一環として第一学位課程のフルタイム学生で大学入学資格である2科目以上のGCE・Aレベルの取得者に対する奨学金制度が導入された。この奨学金制度は、授業料及び日常経費のための無償奨学金（mandatory awards）制度で、保護者の収入を基に実施された家計資産評価による年収総額の査定結果により補助額が決められ、従前通りLEAを通して配分された（1962 Education Act）。一方で、奨学金の受給対象学生を除く大部分の学生は、その大半はパートタイム学生であったが、依然としてローンで授業料や日常経費を賄っていた。公的補助金と授業料に関する政府と大学の関心は、「大学で学ぶ」学生で、「フルタイム」、かつ、「第一学位専攻」の学生に限られていたわけである。

費用の掛かる寄宿生の奨学金制度は学生が少数であった時代の産物で、1970年代初頭までは機能していた。しかし、その後の学生数の増加に伴い、無償奨学金制度も実施が困難になっていった。

3. 2 1980年代以降の公的学生補助金制度

3. 2. 1 教育費用有償制度の導入

高等教育を受ける学生数の増加につれ、高等教育予算が国家財政を圧迫するようになり、1994年には各学生の教育費用として少なくとも平均2,877ポンドの国庫負担が必要となった（表9）。2,877ポンドはあくまでも全学部に掛かる費用の平均で、例えば、医学部学生が増加することになれば政府予算は大きなマイナスを生じることにもなる。

1997年当時で大学進学人口の約37%に相当する学生が高等教育機関に在籍していたが、大学進学者数はその後も拡大していくと予想されていた（NCIHE 1997）。政府の目標であった高等教育への進学率を50%にまで高めるためには、学生から授業料を徴収すると共に、貧困層への授業料支援や、成人の技能水準向上のための施策を促進することも視野に入れる必要が生じた。そのため、政府はデアリング委員会の勧告に従って1998年の教員・高等教育法（Teacher and Higher Education Act 1998）後、授業料や日常経費の公的援助を完全に廃止し、全高等教育機関で統一された授業料徴収制度を

表9 第三次教育を受ける学部学生一人当たりの教育費用と教育費用の総額

	学部ごとの学生一人当たりの 教育費用 (単位:ポンド) 1994	教育費用の総額 (単位:百万ポンド) 1994
高等教育機関 フルタイム		
医学部	10, 151	257
工学部	4, 912	462
その他の自然科学系学部	4, 623	1, 063
教育	2, 900	157
その他の人文社会学系学部	2, 600	1, 167
パートタイム		
医学部	4, 337	0*
工学部	2, 904	46
その他の自然科学系学部	2, 751	132
教育	1, 513	23
その他の人文社会学系学部	1, 400	255
継続教育カレッジ		
フルタイム	3, 050	869
パートタイム	1, 600	0*
合計	2, 877	4, 432

出典: Williams, G. *Paying for Education beyond Eighteen: An examination of issues and options*, London: Council for Industry and Higher Education, 1996, 38-39.

註: 0と書いているが、1未満の意味である。

導入した。1960年代以来40年近く、国が奨学金を保障する形で学生の授業料を負担してきたが、1998/99年度からは連合王国国内（2007年からはスコットランドとウェールズは除く）及びEU 諸国からの第一学位専攻のフルタイム学部生から授業料を徴収することになった。

授業料徴収制度の導入の理由は、第一に、高等教育を受ける人口の拡大が公的財源を圧迫し、高等教育費用の負担額が増加したことが挙げられる。学生一人当たりの公的資金 (unit cost) の減少は、大学へと進学する学生が増大した結果である。この学生数の増加には理由があった。この学生数の増加について、教育雇用省のクラーク (Tony Clark) は次のように述べている。

「・・・供給側の大学がビジネスを始め、教育提供の場を増大したことが、大学に行くべきかどうか迷っていた人々の認識にインパクトを与え、高等教育の需要が拡大したのでした」(秦 2001: 215)

クラークのこの言葉には、補助金獲得を目当てに学生数を増やした大学が多数現れたという事態も含められている。

第二に、高等教育を受けることのしない納税者側からの批判である。その結果、受益者（大学生・保護者）負担が求められた。その背景には、利益を得ていない納税者からの大学生の一方的利益に対する反感が起こったことによる。

政府が2003年1月に公刊した白書『高等教育の将来 (The future of higher education)』では、1989年から1997年の間に学生への補助金が政府により36%も減額されたことを認める一方で、学位保持者が非保持者よりも生活レベルが高いことに言及することで、受益者負担を正当化した。しかし、高等教育を受けた人材から便益を得るのは大学生や保護者に限らない。広い意味で社会や政府も恩恵を受けるはずであるが、そのことは議論上には上がってこなかった。

第三に、経済的観点から授業料が教育市場を活性化させるという議論である。各高等教育機関は数多くの学生を集めるために、教育・研究の向上を目指して高等教育機関同士で競争を行う。その結果、教育面においても研究面においても高等教育機関のみならず広く社会に良い影響をもたらすというのである。

第四に、保護者が大学に掛かる費用への支払いを意識することで、大学改善に積極的に参加するようになること、あるいは大学自らも授業料の拠出者に対して対応が機敏になるということが考えられる。

第五に、かつてならば国の行政範囲内で集金が可能であった税金も、民営化やグローバリゼーションにより、国家という枠を超えた企業の成立により簡単に税金を徴収できなくなったことが考えられる。

次に、授業料徴収と密接な関係をもつ高等教育人口の拡大と大学自治について論じる。通産省 (Commerce, Industry and Public Sector: CIPS) の管轄下にある学生への補助金枠が決まっているために学籍数の上限は補助金額を基に必然的に決定される (表10)。そのため、学生数を増やすことで授業料の増額を図ることもできず、政府による学籍数の縛りは高等教育人口の拡大や大学自治を抑える働きをしている。

表10 高等教育機関 (類別) が募集できる最大学生数 (maximum student number: MaSN)¹⁶の
上限の経年変化 (1994/95年度から2000/01年度)

	1994/95 年度	1995/96 年度	1996/97 年度	1997/98 年度	1998/99 年度	1999/00 年度	2000/01 年度	1994/95～ 2000/01年度の 変化率
旧大学	274,060	278,851	278,130	278,751	281,256	320,246	329,402	20%
新大学	333,223	339,925	335,083	332,925	335,120	385,007	386,707	16%
高等教育カレッジ	61,980	63,047	63,508	63,961	64,980	73,751	75,753	22%
専門家養成高等教育 カレッジ	26,171	26,632	27,923	28,072	29,053	32,228	33,479	28%
合計	695,434	708,455	704,644	703,709	710,409	811,232	825,341	19%

出典: HEFCE. *Supply and demand in higher education*. Bristol: HEFCE, 2002: 67. を基に作成

そこでロンドン大学のバー (Nicholas Barr) は緩和策として、第一に公的補助金は現状のまま配分しながら大学受け入れ学生数を拡大すること、第二に私的補助金を拡大するためのメカニズムを構築することの2点を提言した (Barr 1989, 1991)。しかし、中央政府により授業料徴収と共に公的補助金の配分に関してはバーの提言に一部修正が加えられることになった。政府からの学生支援策に関しては、1990年の教育法 (Education Act 1990) により国の出資により設立された学生ローン会社による所得連動型返還ローン (Income Contingent Loans) と呼ばれる学生ローン (貸与制奨学金)

の導入が認可され、1991年から開始された。家庭所得基準が17,500ポンド以下であれば給付制奨学金が全額給付となっている。

授業料徴収に関しては、1998年にはイングランドの高等教育機関では、学生一人に対して要する授業料の約25%に相当する1千ポンドの授業料が学生ローン会社（Student Loan Company: SLC）を通じて徴収されることになった。その後、1999年にはインフレ率が反映されて1,025ポンド、2001年は1,075ポンド、2003年は1,125ポンドの授業料が各学生に課せられた（HEFCE 2003）。

授業料徴収により政府の決める学籍数の上限も上がり、高等教育人口は量的に拡大し、その意味では社会的公正は進んだといえる。しかし、一方で、授業料の徴収は、その費用を支払えない学生の学修期間の短縮を引き起こし、大学進学者数も減少させた。そのため、優秀な学生の進学機会を阻むことも予想された。このことは、また新たな不平等をもたらすことを意味する。そこで、学生への支援策として、低所得者層への支援のために LEA による保護者の収入審査が行われることになり（表11）、社会福祉的側面からの進学のアksesが考慮され、受給学生数も増加することになった。また、大学進学人口の拡大のために加えて政府は、フルタイム学生を対象とするアkses・ファンDを高等教育機関に導入した。その結果、2004/05年度で学生ローンの総額は約30億ポンド、2005/06年度には総額32億ポンドがフルタイム学部生に充てられることになった¹⁷。

表 11 フルタイム学生の授業料の減免基準とそれを受ける学生数及びその割合

保護者の年収	減免措置	学生数（単位：千人）	割合（単位：%）
20,480 ポンド未満	全額授業料免除	323	43
20,480 ～ 30,501 ポンド	一部授業料免除	109	14
30,502 ポンド以上	全額授業料負担	321	43
合計		753	100

出典：篠原康正「イギリス」『諸外国の教育の動き 2004』文部科学省 2005：58.

2003年に公表された政府の高等教育白書である「高等教育の将来(The Future of Higher Education)」の提言に基づき、2006/07年度の入学者からは減免措置が無くなると共に、授業料のローンの返済は原則的には卒業後の4月から始まるが、卒業生の年間所得が1万5,000ポンドに達しない間は返済が猶予されることになった。そして、この額に達した時点から超過分の9%を雇用主が税金と共に源泉徴収し、歳入・関税庁に納付する方法が採られることになった¹⁸。実質利率は0%で、卒業後25年間で残債務が消滅する計算である（芝田 2008：91）。

1980年当時は大学とポリテクニクそれぞれの授業料収入による追加財源は総額の18%と12%であったが、2000/01年度の学部生と大学院生の授業料の合計が大学収入に占める割合は、旧大学で59%、新大学で33%となり（註を参照のこと）、高等教育機関の授業料への依存度は急増した。その一方で、新・旧両大学の政府の公的補助金に依存する割合が、80%から47%に減少した。授業料は公的補助金の減額を補填し、その占める割合は高等教育機関の収入の中で政府の公的補助金に次ぐものとなった。そのため、授業料に関わる諸事がイギリス高等教育の将来を検討する上での問題点として1980年代より政府¹⁹や研究者²⁰により頻繁に取り上げられることになった。

3. 2. 2 パートタイム学生への経費支援

授業料問題には、パートタイム学生への資金援助という別の争点も潜んでいる。無償奨学金 (mandatory awards) は、教員養成を含めた高等教育のフルタイム及びサンドイッチ・コースに在籍する学生 (サンドイッチ・コースの受講学生はフルタイム学生と看做される) に給付される。問題は、年々その数が増加するパートタイム学生への支援対策を構築することであった。パブリック・セクターの高等教育機関に占めるパートタイム学部生の割合の高さにもかかわらず、1980年代まではパートタイム学生への公的補助金が考慮されてこなかったことが問題として顕在化してきたのである。サンドイッチ・コースを受講するパートタイム学生には、職場から授業料の支援がなされている例もあるが、一般にパートタイム学生への公的資金援助は非常に限られていた。パートタイム学生の所属する高等教育機関は大半がパブリック・セクターに属しており、HEFCE から一括補助金という形で定額補助を受けているものの、パートタイム学生は授業料も自ら支払い、フルタイム学生ならば公的補助金を受け取ることができる日常経費も、失業中でない限り捻出する必要があった (NCIHE 1997)。

また、1980年代はプライベート・セクターの大学への公的補助金は増加傾向であったが、パブリック・セクターの高等教育機関への補助金額は減額が続いていた (Watson and Taylor 1998)。その結果、パブリック・セクターはプライベート・セクターの大学が受け入れられない学生を引き受ける役割を担いながらも、教育の質を維持するために学生数を抑えることで、学生に掛かる諸経費を一定枠に収めなければならない状況に陥った。

『デアリング報告書』によれば、パートタイム学生の授業料をフルタイム学生と同程度のレベルで政府が負担することを避け、たとえ融資という形ででも雇用主に補助金の分担を望みたいということがデアリング委員会の意向であった。全学生の中でパートタイム学生数が占める割合は31%と高く、パートタイム学生も含めた学生全員に補助金を配分することは政府としては不可能だと考えたからである。プライベート・セクターの高等教育機関や CVCP も、パートタイム学生への公的補助金に関しては非協力的であった。

しかし一元化後、フルタイム学生に加えて成人学生やパートタイム学生が増加し、またモデュラー制度が大学において広く取り入れられたためにフルタイムとパートタイム学生の境界線が不明明になってきた結果、1996年に政府は HEFCE を通してフルタイム、パートタイムに関わり無く教育費補助金を配分することを決定した。その後、1998/99年度から各高等教育機関ではフルタイム及びパートタイム両学生に教育費補助金が配分されることになった。これにより、1992年の一元化によるパブリック及びプライベート・セクターにおける高等教育機関の名称による社会的格差の解消に続き、フルタイムとパートタイムの学生間の公的補助金の格差も消失することになった。

3. 3 学生からの学費徴収とその影響

1998年の入学者から年額1,000ポンド (約18万円1998年当時) の授業料の徴収が実施された。1988/89年度、1992/93年度、そして1995/96年度における26歳以下の学生一人当たりの年間の収入は、下記表12が示す額となっていた。公的補助金が増額されない中、保護者からの援助は減少している

が、学生融資金、アルバイト収入、銀行からの借入、そして貯蓄の引出が軒並み増加している。政府からの学生支援となる公的補助金が占める割合が23%で、1988/89年度及び1992/93年度と比較すると15%減少した。授業料の支払いのために勉学よりアルバイトを優先せざるを得ない学生が増え、1995/96年度にはアルバイトからの収入は1988/89年度の3.3倍となっている。

表12 26歳以下の学生一人당に年間入る財源

収入源	1988/89年度		1992/93年度		1995/96年度	
	ポンド	%	ポンド	%	ポンド	%
公的補助金	1159	38	1300	38	1063	23
保護者からの援助	955	32	902	26	1002	22
学生融資金	0	0	291	8	628	14
アルバイト収入	187	6	237	7	621	14
贈与	268	9	235	7	494	11
銀行からの借入	108	4	146	4	278	6
貯蓄からの引き出し	124	4	80	2	284	6
その他	230	8	269	8	205	4
合計	3031	100	3464	100	4575	100

出典：Watson, D. & Taylor, R. *Lifelong Learning and the University*, London: The Falmer Press, 1998: 88.

それに伴い、学生融資の利用率も1994/95年度は1990/91年度の約2倍にまで上昇した（表13）。イギリス大学自治の数少ない枷の一つである授業料問題に関してはロンドン経済・政治学研究所（London School of Economics and Political Science: LSE）と政府を中心に1980年代後半より議論され続けてきたが（Barr 1991）、解決策は未だ見出されていない。

表13 連合王国における学生融資利用率とその総額

	1990/91年度	1991/92年度	1992/93年度	1993/94年度	1994/95年度
利用率 (%)	28	36	41	47	55
総額 (単位: 100万ポンド)	83.5	157.3	246.2	333.2	555.5

出典：Office for National Statistics. *Social Trends*. London: The Stationery Office, 1997: 69.

1990年代後半には、有力な研究大学の集まりであるラッセル・グループは年5,000ポンドの授業料の値上げを要求した。そのため、政府や教育雇用省は討議を重ね、2000年2月にはブランクett教育雇用担当大臣は各大学が国の規定する額以上の授業料をトップ・アップ・フィー (top-up fee)²¹として課すことの有効性を示唆した。その後、ラッセル・グループは、高等教育法案 (Higher Education Bill) の修正を実施するためにさらに政府に圧力をかけたが、後任の教育雇用担当大臣のジョンソン (Alan Johnson) は、各大学での1,000ポンドから3,000ポンドの間での自由な授業料設定を容認する立場を表明した (2003年9月11日付 *The Daily Mail*, p.15)。そして、2003年に公表された政府の高等教育白書である「高等教育の将来 (*The Future of Higher Education*)」の提言に基づき、最終的には2004年の高等教育法 (Higher Education Act 2004) により、国が授業料の上限を設定するものの、定額方式から各高等教育機関が独自に授業料を定める個別対応方式に変更された。これ以降、2006年9

月から各高等教育機関が学科毎、あるいは専攻別に0ポンドから最高額3,000ポンドの幅で随意に授業料を設定する事が可能になった (DfES *Higher Education Gateway*)。本白書では、授業料引き上げにより各大学が追加財源を増加することで、大学が将来の戦略や財政について自ら責任を負えるような自由度を増すべきであるという論点を強調している。

日本の新聞報道 (『読売新聞』2004年1月28日付け朝刊) の中には、『英大学授業料値上げ』採決へ」といった誤解を招く記述もあったが、この表現はあくまでも政府見解の一部分に過ぎない。0ポンドから上限3,000ポンド内での授業料設定とは、大学毎に設定するという意味ではなく学科やコース毎であるため、他大学との差別化を図ることが可能となる。しかし、逆に、各大学ではRAEで好成績を得たコースに高い授業料を、成績が悪かったコースには低い授業料を設定するといった大学内部での差別化が生じることも十分に予測できる。

フルタイム学部生の授業料は増額すべき (例えば、5,000ポンド) とする意見もあるが (Bennett, Glennerster and Nevinson 1992)、高等教育修了生が社会に還元している多大な利益を考慮するならば、卒業生からの寄附や雇用者側からの研究助成金支援も十分に考えられることである。しかし、過去の例を考えると、雇用者側からの多額の寄附は望めない。

1989年の授業料導入に対する学生への授業料支援策としては学生融資制度の拡大政策が採られたが、授業料の導入及び日常経費の完全廃止は貧困層からの学生の進学を阻害するという議論があり (Bennett, Glennerster and Nevinson 1992)、再度日常経費のための補助金の導入が試みられている。しかし、少なくとも給付制及び貸与制奨学金、あるいは授業料の所得連動型返還方式の実施は、高等教育機関進学機会均等 (widening participation) 政策と同じく、過去においては大学進学を視野に入れてこなかった階級や層の高等教育進学を促すための特別な配慮が政府によりなされていると判断しうるものである。

4. 大学の財務

大学の観点から考えると、政府からの補助金なくして大学は存在し得るのであろうか。例えば、旧研究大学は資産運用や学外資産の増加に努めており、研究大学ほど HEFCE よりも研究審議会 (RCs) 交付金の割合が高く、授業料収入が低いといわれている (吉田 2003)。

吉田の説を検証するために伝統的大学2校とウォリック大学 (第二次世界大戦後の新構想大学) やバーミンガム大学 (旧市民大学) を比較する。吉田の説を裏付けるように、ウォリック大学やバーミンガム大学は授業料収入への依存度がそれぞれ、27.1%と20.4%で、オックスフォード大学が12.2%、ケンブリッジ大学が12.4%となり、ウォリック大学やバーミンガム大学は伝統的大学よりも授業料収入への依存度が約2倍高くなっている (表14)。特に、ウォリック大学は HEFCE からの補助金額が少ないことに反比例して授業料収入が総収入に占める割合が高くなっている。また、研究審議会の補助金への依存度に関しては、ウォリック大学やバーミンガム大学の依存度は、5.4%と8.6%で伝統的大学 (11.4%と13.3%) の約半分となっている (表14)。他方、4大学の HEFCE からの補助金収入が総収入に占める割合はそれぞれ、29.1%、31.3%、26.1%、32.8%とウォリック

表 14 イギリスの4研究大学の学生数と収入・支出 (2002/03 年度)

	オックスフォード	ケンブリッジ	ウォリック	バーミンガム
学部生	11,563	12,375	10,346	16,469
大学院生	6,598	6,361	3,962	7,064
単位	千ポンド (%)	千ポンド (%)	千ポンド (%)	千ポンド (%)
収入				
HEFCE からの補助金	133,415 (29.1)	145,400 (31.3)	55,545 (26.1)	95,867 (32.8)
授業料	55,653 (12.2)	57,700 (12.4)	57,706 (27.1)	59,557 (20.4)
FT (国内学生)	17,591 (3.8)	19,800 (4.3)	33,793 (15.9)	22,720 (7.8)
FT (海外留学生)	21,050 (4.6)	22,600 (4.9)	17,768 (8.4)	16,179 (5.5)
PT	14,038 (3.1)	13,600 (2.9)	4,468 (2.1)	18,906 (6.5)
補助金	2,974 (0.6)	1,700 (0.4)	1,677 (0.8)	1,752 (0.6)
研究補助金及び研究契約	162,894 (35.6)	162,200 (34.9)	30,357 (14.3)	70,673 (24.2)
研究審議会	52,134 (11.4)	62,000 (13.3)	11,555 (5.4)	25,147 (8.6)
慈善団体からの補助金	61,118 (13.3)	49,000 (10.5)	4,271 (2.0)	17,225 (5.9)
その他	49,642 (10.8)	51,200 (11.0)	14,531 (6.8)	28,301 (9.7)
その他の運営収入	68,925 (15.1)	73,200 (15.7)	67,531 (31.7)	62,047 (21.3)
寄附収入及び受取利息	37,045 (8.1)	26,300 (5.7)	1,643 (0.8)	3,709 (1.3)
収入合計	457,932 (100.0)	464,800 (100.0)	212,782 (100.0)	291,853 (100.0)
支出				
職員給与	233,991 (52.6)	250,800 (53.7)	109,463 (52.6)	163,067 (58.4)
減価償却費	21,534 (4.8)	26,500 (5.7)	8,973 (4.3)	24,669 (8.8)
その他の運営費用	189,479 (42.6)	189,700 (40.6)	87,887 (42.2)	89,050 (31.9)
支出合計	445,030 (100.0)	467,000 (100.0)	208,051 (100.0)	279,227 (100.0)

出典: *Financial Statement 2002/03 at Oxford University, Cambridge University, Warrick University, Birmingham University.*²²

大学は少し額が少ないが、他の3大学はほぼ30%と同じ割合を占め、その割合も、伝統的大学で約3倍、ウォリックやバーミンガムで約5倍となっており、研究審議会からの補助金率よりもかなり高い。以上のことから、研究大学ほど授業料収入が低いとは言えても、HEFCE よりも研究審議会(RCs) 交付金の割合が高いとはいえないことがわかった。

4大学に特化せず、広く、新大学(1992年以降に大学に昇格した大学)、旧大学(1992年以前からの大学)、高等教育カレッジ・研究所の財務状況の中でも収入を比較する(2001/02年度)。

表15 新大学、旧大学及び校と高等教育カレッジ・研究所の財務状況(収入)(2001/02年度)

	HEFCE からの補助金	授業料	研究補助金及び コントラクト	その他	施設賃貸料 及び食費	寄付金 及び投資	合計
新大学	1,631,637	1,022,188	146,657	328,369	227,321	25,474	3,381,646
割合	48.2%	30.2%	4.4%	9.7%	6.7%	0.8%	100.0%
旧大学	2,707,272	1,707,976	1,833,284	1,073,698	540,517	192,233	8,054,980
割合	33.6%	21.2%	22.8%	13.3%	6.7%	2.4%	100.0%
新大学/旧大学	60.0%	60.0%	8.0%	30.6%	42.1%	13.3%	42.0%
高等教育カレッジ・研究所	153,458	68,280	1,522	26,689	31,793	1,917	283,659
割合	54.1%	24.1%	0.5%	9.4%	11.2%	0.7%	100.0%

出典: HESA. *Financial Statistics Return 2001/02*. Cheltenham: HESA, 2003. の資料を基に作成

新大学は、HEFCE からの補助金は研究審議会（RCs）交付金よりも約12倍も割合が高く、授業料収入は全収入の30%を占めている。旧大学は、HEFCE からの補助金、授業料、そして研究審議会からの補助金の比率は、約3：2：2となっている。

また、これら4大学の中で伝統的大学は外部資金の獲得額が高いというのが一般的なイメージである。しかし、例としてオックスフォード大学単独での財務状況をいま一度検討してみると、以下のことがわかった。

2006年度のオックスフォード大学を例とすると、総収入額は50億3,940万ポンドで、収入の大枠は、1) HEFCE からの補助金が16億5900万ポンド、2) 学校教育養成・開発機構 (Training and Development Agency for Schools) からの補助金が90万ポンド、3) 授業料徴収等からは8730万ポンド、4) 研究補助金や研究契約からの資金が21億3,400万ポンド、5) その他の運営収入が11億3,000万ポンド、6) 寄付収入及び利息からは2820万ポンドとなっており、1) から5) のそれぞれが全体に占める割合は、33.0%、0.001%、1.7%、42.3%、22.4%、0.6%となる（表16）。確かに伝統的大学であるオックスフォード大学においては、研究補助金が HEFCE 補助金を上回っている。

表16 オックスフォード大学の財務状況・収入内訳（2006年）

	単位：ポンド	単位：%
1) HEFCE	16 億 5900 万	33.0
2) 学校教育養成・開発機構 (Training and Development Agency for Schools)	90 万	0.001
3) 授業料徴収等	8730 万	1.7
4) 研究補助金や研究契約	21 億 3400 万	42.3
5) その他の運営収入	11 億 3000 万	22.4
6) 寄付収入及び利息	2820 万	0.6
合 計	50 億 3940 万	100.0

出典：University of Oxford. *Financial Statements 2005/06*, Oxford: Oxford University, 2007: 14, 17.

更に、オックスフォード大学の財務3) から6) の内訳を詳細に分類していくと、下記表17となる。研究審議会からの交付金は HEFCE からの公的資金の総額のうち4.3%に過ぎず、授業料収入の方が研究審議会からの交付金を上回っている。このことは吉田の説を覆すものである。また、HEFCE や公的資金以外の民間資金の合計は、13億8,920万ポンドとなり、全体の27.6%にしか相当しない。学外資産が集まりやすい研究大学と呼ばれるオックスフォード大学において学外資金の依存度が27.6%に過ぎない状況では、他の大学においては更に学外資金は少なくなるものと考えられる。つまり、伝統的大学においてさえ自らの資産で大学運営を実施することが厳しい状態の中で、他の大学が自立的運営を行うことはまず不可能であろうと考えられるのである。大学が自立した運営を実施できないとするならば国に依存するしかなく、その結果は、社会からの要請を受け、政府からの公的予算に見合った、また、効率性の高い政策や管理も一部受け入れることも必要となる。

更に、オックスフォード大学の2000年度から2006年度にかけての経年変化を辿ると、授業料及び教育・研究支援補助金やその他の運営からの収入が HEFCE からの財源に比較して伸び率が高い（表18）。

表17 3) から6) までの収入の内訳 (単位: ポンド)

3)	自国学生の授業料 1930 万	海外留学生の 授業料 3680 万	パートタイム学生か らの授業料 140 万	その他課程の 授業料 1890 万	試験費 用 30 万	研究訓練支援 補助金 1060 万
4)	研究審議会 7060 万	慈善団体 7600 万	団体からの補助金 6680 万			
5)	学寮費、食事、会議賃 貸料 580 万	サービス経費 2280 万	健康保険サービス 570 万	寄附金 1020 万	OUP 3520 万	その他 3330 万
6)	寄附金 1800 万	スピノフ 170 万	投資や利息 850 万			

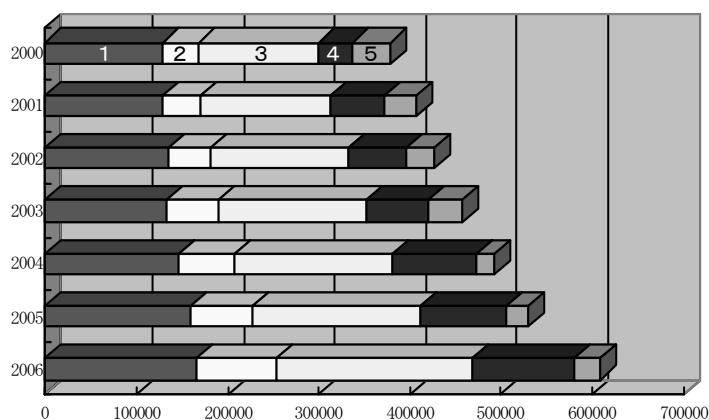
出典: University of Oxford. *Financial Statements 2005/06*, Oxford: Oxford University, 2007: 14, 17.

表 18 オックスフォード大学の損益計算書 (収入)

	2006 年	2005 年	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年
収入 (単位: m ポンド)							
HEFCE からの補助金	166800 27.4	159500 30.1	146630 29.7	133415 29.1	134739 31.6	128461 31.5	127857 33.8
授業料及び教育・ 研究支援補助金	87300 14.3	67800 12.8	60339 12.2	55653 12.2	47574 11.2	42478 10.4	41163 10.9
研究補助金及びコントラ クト	213400 35.1	183600 34.6	173496 35.2	162894 35.6	149744 35.1	142430 34.9	129562 34.3
その他の運営による収入	113000 18.6	95400 18.0	92702 18.8	68925 15.1	64839 15.2	58094 14.2	39156 10.4
寄附金及び利子による収入	28200 4.6	23900 4.5	19880 4.0	37045 8.1	29653 7.0	36260 8.9	40527 10.7
総収入	608700	530200	493047	457932	426549	407723	378265

出典: University of Oxford. *Financial Statements 2005/06*, Oxford: Oxford University, 2007: 14, 17.

グラフ 3 表18 オックスフォード大学の損益計算書 (収入) のグラフ



1: HEFCE からの補助金、2: 授業料及び教育・研究支援補助金、3: 研究補助金及びコントラクト、
4: その他の運営による収入、5: 寄附金及び利子による収入

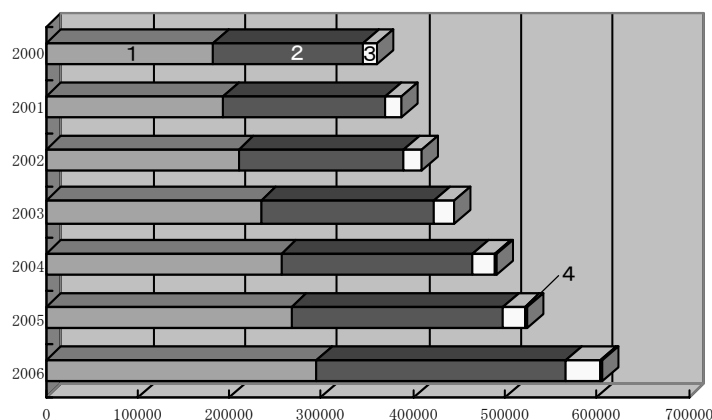
支出に関しては、4つの項目の総支出に占める割合には、ほとんど変化が見受けられない(表19)。

表 19 オックスフォード大学の損益計算書(支出)

支出(単位:mポンド)	2006年	2005年	2004年	2003年	2002年	2001年	2000年
教職員への給与等	295600 48.7	267100 51.0	255953 52.1	233991 52.6	209869 51.2	193349 49.9	182010 50.4
その他の運営費	270500 44.6	230800 44.0	208983 42.6	189479 42.6	179696 43.8	177227 45.8	163739 45.3
固定資産 ²³ の減価償却費	37300 6.2	23200 4.4	24902 5.1	21534 4.8	20287 4.9	16472 4.3	15317 4.2
支払い利息	2800 0.5	2900 0.6	984 0.2	26 0.0	168 0.1	92 0.0	152 0.1
総支出	606200	524000	490822	445030	409988	387140	361218

出典: University of Oxford. *Financial Statements 2005/06*, Oxford: Oxford University, 2007: 14, 17.

グラフ4 表19 オックスフォード大学の損益計算書(支出)のグラフ



1: 教職員への給与等、2: その他の運営費、3: 固定資産²⁴の減価償却費、4: 支払い利息

オックスフォード大学もケンブリッジ大学も、その収入合計は他の2大学の約2倍であり、また、他の2大学とほぼ同数の学生数であるにもかかわらず(表14) HEFCE や TTA からの補助金も約2倍となっている。これは、オックス・ブリッジがカレッジ制度とチュートリアル制度を採用しているための補助金が加算されているからである。両大学には、両制度用の多額の補助金が従来から政府より支給されてきた経緯がある。

オックスフォード大学の教育費用を例にとると、チュートリアル制度を支援する費用をも含む教育費用の総額は1年に2,500万ポンドを要し(2005年)、たとえ各学生から3,000ポンドの授業料を徴収したとしても1,200万ポンドにしか達しないとされている(Lambert 2005)。単純計算でも、毎年1,300万ポンドの不足が出ることになる。また、教育の質を落とさないために SS 比を現状と同様、低い状態で維持しようとするれば、そのために掛かる教職員雇用のための費用には、毎年1億ポンドから2.3億ポンドが必要となる。

研究大学における研究審議会からの交付金の割合の高さは研究大学としての使命を果たした結果

であり、研究大学は自らが生み出した研究成果を社会に還元することでも研究大学としての社会に対する説明責任を果たしているものと考えられる。しかし、伝統的大学で実施しているテュートリアル制度といった特質ある教育を実施しつづけるためには、授業料収入で補充できず、教育費用をその他の収入から補填するしか方法がない。そこで、卒業生等からの寄附金や利息収入が重要な意味を持つことになる。伝統的大学では（オックスフォード大学13.3%と8.1%、ケンブリッジ大学10.5%と5.7%）、慈善団体や寄附金による補助金が他大学よりも多く（ウォリック大学2.0%と0.8%、バーミンガム大学5.9%と1.3%）、その額が研究審議会からの補助金よりも高額である点が、特徴的だと言える。

支出に関しては、各大学で教職員の給与が占める割合はそれぞれ、52.6%、53.7%、52.6%、58.4%と6割弱で、減価償却費が占める割合はそれぞれ、4.8%、5.7%、4.3%、8.8%となっている。ケンブリッジ大学とバーミンガム大学は共に理工系の大学であるので、減価償却費が占める割合が高くなると考えられる。その他運営費用が占める割合はそれぞれ、42.6%、40.6%、42.2%、31.9%となっている（表14）。

オックスフォード大学とケンブリッジ大学はきわめて似た財務構造になっており、収入については HEFCE からの補助金が30%、授業料収入が12%、研究補助金及び研究契約収入が15%で、支出については職員給与が60%弱、減価償却費が5%、その他の運営費用が35%となっている。

なお、高等教育の一元化を挟む時期はサッチャー及びメイジャー政権期であり、一般には大幅な教育予算の削減がなされたと認識されている。この点について少し補足しておきたい。1980年代、大学への補助金額は大きく削減された。しかし、若干注意が必要なのは、サッチャーが政権を取った直後の1980/81年度から政権終局時1990/91年度までの10年毎の経年変化を辿ると、GDP と教育経費総額とを対比させた割合はほぼ増減がない（総額に占める割合が25%から27%）点である（表20）。

では、教育経費は充分であったのかといえ、そうともいえない。高等教育を受けている人間の数は1960年代後半から1990年代後半の間に約3倍になった。それにもかかわらず、高等教育予算のGDP 比に大きな変化がないということは、学生一人に対して掛ける費用の割合が低下していることに他ならない。また、割合だけでなく実際の学生一人当たりの経費も1976年当時と1995年当時を

表20 教育経費の内訳 （単位：百万ポンド）

	1970/71年度	1980/81年度	1990/91年度	1994/95年度
初等学校経費	5,169	6,495	7,908	9,611
中等学校経費	5,983	8,394	8,838	9,439
高等教育経費	5,642	6,729	7,934	9,314
その他教育経費	766	1,112	1,584	1,026
合計	18,038	23,724	27,607	30,877
関連経費	2,951	3,243	2,854	3,627
税金	729	400	572	639
総額	21,718	27,366	31,033	35,144
GDP における教育総額の割合(%)	5.2	5.5	4.8	5.2

出典：HESA. *Resources of Higher Education Institutions 1971/72, 1980/81, 1990/91, 1994/95*. Bristol: HESA. を基に作成

比較すると約42%減少していた（NCIHE 1997: Table 3.15, Table 3.16）。補助金の削減と、学生一人に掛ける費用の低下、この二点から考える限り、一元化前後の時期における新・旧大学の財政的環境は厳しかったと言わざるをえない。

研究とは国からの社会的・経済的要請に合致する目的のみにおいてなされるものではない。大学とは政治的に、また経済的に利点がない研究を行うに最も相応しい場所ともいえるのである。ここでは、オックスフォード大学の副学長であったノース（Peter North）の言葉を引用することで、国庫補助金の使途に関する中央政府の政策への警鐘とする。

「政府は政治的な利点がないことには反対し、政治的に人気があることには賛同して資金を回すという傾向があります。しかし、大学とは政治的な利点がないことを行うに最も相応しい場所でもあるのです。・・・人類の一般的な利益になるかどうかかわからないことに時間とお金を費やすことも必要なことであるといえるのです。科学者の続けてきた小さな歩みの繰り返しによって人類の技術の進歩も始まるのです。政治家はこの重要性を理解できていないのではないのでしょうか（ノース副学長）」（秦 2001: 138-139）

5. 結語

高等教育予算に関しては、自国学生数の増加が政府の高等教育予算を逼迫させつつあるという問題を本章において明示した。その一方で、有名な高等教育機関ではなく、リーグ・テーブルの中段に位置する機関では学生は減少し、地方の高等教育機関や、労働者層から学生を集めている機関も規模的に縮小傾向にある。現行の研究評価制度では結果を出すために十分な研究者が揃っている学部が評価され易く、小規模の大学で高い評価を出すことは困難となる。そのため、現行の研究評価体制は政府の補助金が有名機関に集中するという事態を招いている。それ故、例えばマンチェスター大学²⁵のように統合により規模を拡大し、補助金の獲得を目指す大学も出てくる。アスピノール（Robert Aspinall）も、小規模大学が教育大学ではなく研究大学として残るためには、2004年のマンチェスター大学が他大学に先駆けて実施した大学の合併が一つの戦略とならざるを得ないと論じている（アスピノール 2005）。

本章では、新大学の出現に対応してパブリック及びプライベート両セクターのために統一された補助金配分機関を第一の検討課題とし、まず、この新たな補助金配分機関の機能及び設立目的を紹介し、次いで、その新機関が行った実際の補助金配分が両大学に与えた影響を論じた。第二の検討課題は、授業料徴収が高等教育機関にもたらした変化であり、学生から徴収する経費との関連で予測される将来起こりうる問題について論考した。

第一の検討課題について考察結果を述べる。本章で取り上げてきたように、HEFCE 及び研究審議会の補助金やその他官庁からの融資や学生への奨学金を通じて予算を配分している政府が、過去においても、また現時点においても高等教育部門の最大の財源であることは明らかである。しかし本稿で述べたように、将来的にその役割を担い続けられるかどうかは予測がつかない。

そこで、高等教育機関への公的財源の将来的展望を考えるために、以下の4つの観点からの考察が重要となる。

- ① 卒業生からのローンの返済は可能か
- ② 公的補助金と学生からの授業料の額の変動はあるのか
- ③ 雇用者側からの補助金額の増額は期待できるのか
- ④ 政府は公的財政支援を拡大する方向に、あるいは縮小する方向にあるのか

上記それぞれの設問に対する2009年時点での解答を以下に述べる。

①に関しては、バー（Barr 2001）によれば所得連動型返還方式では、所得の一定割合が源泉徴収の形で回収されるため卒業生の支払能力に応じた返済額になり、生涯所得が低い卒業生も25年間で債務が消滅する。そのため、高等教育への投資効果の不確実性から生じるリスクが抑えられるとしている。

②に関しては、既に1998年から1,000ポンドを徴収していたが、2006年には0ポンドから3,000ポンドの範囲で授業料を徴収する制度に変更された。しかし、政府は授業料の自由化までは視野に入れておらず、授業料の自由化を実施するのであれば、まず高等教育機関における学籍数の自由化が図られねばならない。しかし、学籍数の自由化を実施するということは、政府から学籍数に応じて配分されてきた補助金の廃止にも繋がり、中小規模の教育に専心する高等教育機関にとっては学籍数に応じた補助金を廃止すること自体がその機関の存廃を左右する。また、現状において大学グループ毎の棲み分けが国際競争においても十分に機能していると考えられるため、今後の授業料の額の変動はほぼないと予測する。

③に関しては、過去の例から鑑みても雇用者側からの支援は期待できない。しかし、雇用者側からの支援の増大こそが、イギリスの高等教育機関の次段階の発展のためには不可欠なものと考えられる。

④に関しては、高等教育統計機構（HESA）の公的記録によると、毎年大学の収入は増大している。その内訳は全高等教育機関の平均で、HEFCEからの補助金が占める割合は全体の35%、そして他の公的機関からの補助金が占める割合は全体の25%となり、合計60%が公的補助金となる（Clark 2009: 14-15）。また、これら補助金は政府からの直接配分ではないため、各大学への政治的介入の危険性が最小限に抑えられているとしている（Clark 2009）。また、法的にも授業科目の選択や教職員や学生の選考を含む大学への内政干渉が禁じられている。

表6.8は、大学の基本財源における公的補助金への依存度を新・級両大学に分類し、集計した数値を比較したものである。HEFCEの補助金配分額に関して、新大学では総収入の中に占める割合が51.7%であった一元化直後の1994/95年度に比べ、2001/02年度には48.2%に減少している。減少してはいるものの、新大学は平均約50%をHEFCEからの公的補助金に依存しており、公的補助金依存度は高いと考えられる。それに比べて旧大学では38.5%から33.6%に減少しており、依存度が低くなっている。つまり、旧大学の方が、学外からの私的な追加財源により、教育研究のための財政的制約が緩和できる条件が整ってきているといえる。

授業料徴収に関しては、新大学では総収入の中に占める割合が29.2%であった一元化直後の

1994/95年度と比較し、2001/02年度には30.2%と微増ではあるが、総収入の3割を占めるものとなっている。旧大学においても20.4%から21.2%と微増である（表6.8及び図6.4）。

①から④の回答を総合的に判断すると、③において問題は残るものの、政府からの補助金額及び学外資金共に増大しており、各大学への配分額には問題があるが、イギリスの高等教育予算の総額に関してはまだ余裕があると考えられる。

第二の検討課題である授業料徴収に関しては、以下のことが提言できよう。学生数の増減に関しては、学生数確保のためにも公的補助金の削減や授業料徴収による学生への直接的影響（フルタイム学生とパートタイム学生の割合の変化）を考慮しなければならない。上限額の決められていない授業料徴収の自由化は起こり得るのか、起こるとすればどのような制度になるのか、自由化は各機関にどのような影響を与えるのか、補助金配分方法が今後どのように変化するのか等、予測困難な問題ばかりである。しかし、これらの問題に対する解決策を模索することなくしてイギリスの高等教育の進展はない。

政府は授業料徴収の自由化に対して反対しているが、オックス・ブリッジやラッセル・グループが押し切る形で進めている。改善の余地はあるものの、狭義には教育評価（Teaching Quality Assessment: TQA）や学科目基準（Subject guideline）、学外試験委員（External Examiner）制度、広義には高等教育水準審査機関（Quality Assurance Agency for Higher Education: QAA）によって維持されてきた大学間の均質性を破壊することに繋がるであろう。また、豊かな大学は益々豊かになるが、リーグ・テーブルの下位に位置する新大学は計り知れないほどのダメージを受ける可能性が強い。大学の多様性をもとめるならば、授業料徴収の自由化は有効である。しかし、それにより必ず新大学間での統廃合が生じ、最終的には多様化が抑制されることになるであろう。そのことを認識した上でなおかつ政府が授業料徴収の自由化に踏み切るとするならば、二元構造の一翼であった新大学に公的資金を導入することが不可欠となろう。

脚注

- 1 呼称としては1992年以前からの大学は旧大学（old universities）あるいは1992年以前の大学（Pre-1992 universities）と呼ばれ、1992年以降に大学という名称を受けた大学は新大学（new universities）あるいは1992年以降の大学（Post-1992 universities）と呼ばれている。
- 2 イングランド高等教育財政審議会（Higher Education Funding Council for England: HEFCE）、ウェールズ高等教育財政審議会（Higher Education Funding Council for Wales: HEFCW）、北アイルランド教育省（Department of Education, Northern Ireland: DENI）、スコットランド高等教育財政審議会（Scottish Higher Education Funding Council: SHEFC）である。
- 3 高等教育機関ではなく、継続教育機関に分類される。
- 4 ヨークとエセックス両大学は第二次世界大戦後に新設された大学で、共に13学部以上を持つ総合大学であるが、総学生数が他の大学と比べて9,000名、7,000名と少ない。
- 5 ラッセル・グループ（Russell Group）はイギリスの20の主要な研究大学（Research intensive universities）連合である。1994年に初めてロンドンのラッセルホテルで会合を開き、その際に創設された。2004/5年度の研究評価結果では、ラッセル・グループに属する大学がイギリスの大学の研究補助金および契約の収入の65%（約1.8billion ポンド）を占めた。ラッセル・グループが組織されてから、大学のグループ化が目立った。

1) 旧大学 (1992年以前の大学) による大学グループ

①研究大学グループ：バーミンガム (Birmingham)、ブリストル (Bristol)、ケンブリッジ (Cambridge)、カーディフ (Cardiff)、エディンバラ (Edinburgh)、グラスゴー (Glasgow)、インペリアル・カレッジ・ロンドン (Imperial College of Science, Technology & Medicine)、ロンドン大学・キングズ・カレッジ (Kings College London)、リーズ (Leeds)、リヴァプール (Liverpool)、ロンドン大学・LSE (London School of Economics, Science and Policy)、マンチェスター (Manchester)、ニューカッスル (Newcastle)、ノッティンガム (Nottingham)、クイーンズ・ベルファスト (Queen's University Belfast)、オックスフォード (Oxford)、シェフィールド (Sheffield)、サザンプトン (Southampton)、ユヴァーシティ・カレッジ・ロンドン (University College London)、ウォリック (Warwick) の20大学から成る。

②94グループ：ロンドン大学・ロイヤル・ホロウェイ (Royal Holloway)、ダーラム (Durham)、ヨーク (York)、エセックス (Essex)、サリー (Surrey)、ウォリック (Warwick College)、LSE、エグゼター (Exeter)、ロンドン大学・バークベック (Birkbeck College)、ロンドン大学・ゴールドスミス (Goldsmiths College)、ランカスター (Lancaster)、サセックス (Sussex)、バース (Bath)、イースト・アングリア (East Anglia)、レディング (Reading) の15大学及びウェールズ財政審議会 (HEFC for Wales)

③その他の旧大学

2) 新大学 (1992年以降の大学)

①College & Modern Universities (CMU) : Institute of Learning and Teaching (ILT) を含む36の新大学、例えば、テムズ・ヴァレー (Thames Valley)、ウルヴァーハンプトン (Wolverhampton)、からなる。

②その他の新大学：ブライトン (Brighton)

- 6 副学長 (Vice-chancellor: VC) が、行政権を有する実質上の大学の長である。大学の理事会、教授会等主だった委員会全ての会議の長であり、企画運営、行政管理、対外交渉等全権利を持ち、大学運営の責任主体である。通常、この職は、退職まで務められるが、オックスフォード大学、ケンブリッジ大学、ロンドン大学では在職年限の上限が決められている。学長 (Chancellor) は、大学の長という名目ではあるが、式典、学位授与式、入学・卒業式といった行事を執り行う名誉職といえる。
- 7 その他、高等教育コースを提供する継続教育カレッジには、総額として教育費補助金1億4,143万9千ポンドが支給されたが、総額31億6,200万ポンドは教育費補助金額の0.4%となっている。高等教育レベルのプログラムを提供している継続教育機関は221存在しているが、高等教育拡大政策として継続教育カレッジと高等教育機関との共同プログラムにも補助金援助がなされることになった (HEFCE(b) 2004)。
- 8 『学習社会に於ける高等教育 (Higher Education in the Learning Society: Report of the National Committee)』 (1997年)
- 9 『デアリング報告書』 公刊後10年目の年に当たる2007年7月25日にはロンドン大学・教育研究所 (Institute of Education) において、『デアリング報告書 - 10年が経過して (The Dearing Report: ten years on)』が開催された。そのシンポジウムにおいて、デアリング委員会のメンバーであったワトソン (David Watson) が、『デアリング報告書』の中で実施された事柄 (Whatever happened to the Dearing Report?)」を講演した。
- 10 2009年1月29日にロンドンのアメリカン・スクエア・コンフェレンス・センターにて開催された、第7回大学院コンフェレンス (7th Annual Postgraduate Conference) の席上での筆者の質問に対して。
- 11 1997年のロンドン、DfES のオフィスでの面談調査による。

- 12 教育費用は、雇用訓練関連予算を含む。
- 13 社会保障は、2003年から項目名が社会保障 (Social Security) から社会保護 (Social Protection) と変更された。
- 14 サンドイッチ・コースは、1956年に大学に昇格した高等工科カレッジ (College of Advanced Technology: CAT) において発展したコースで、元来工学系の科目が中心であった。その後科学系、そして1964年頃までにはサンドイッチ・コースのための学位をビジネス系科目にまで拡大することが『クリック (Crick) 報告書』で提案されたが、このビジネス系科目でのサンドイッチ・コースの学位は、イギリス高等教育界においても非常に新しい試みで、特異なものであった。ポリテクニクでは開校当初からこのコースを設置し、また非常に有効に活用したために、このコースを取る学生が急速に増加した。1973年当時には、パブリック・セクターの約半数の学生がサンドイッチ・コースに属していた。一方、公的部門であった大学にこのコースが導入されたのは、1966年と言われている。サンドイッチ・コースとは、ある一定期間、学生が企業に研修に行くコースで、高等教育機関に4年以上在学する学生が6ヶ月間研修に行くコースを 'thin sandwich' ('薄いサンドイッチ')・コースと呼び、1年間みっちり研修に参加するコースを 'thick sandwich' ('分厚いサンドイッチ')・コースと呼んでいるのも興味深い (秦 2001)。サンドイッチ・コースには、当時の教育科学省 (DES) より公的な補助金も当てられていたが、主として雇用者側が被雇用者の通常の給料の約80%に相当する額を学生に与えることになっていったため、経済の沈滞期にはコースを提供できる企業が数少なくなった。通常、雇用者側はポリテクニクよりも大学卒業生を雇用する傾向があったが、ビジネス系科目でのサンドイッチ・コースを取っている学生に関しては雇用者側も喜んで雇った。また、ポリテクニクは設立の由来から、通常工学系の学生のための高等教育機関とみなされ、工学系以外の学部の卒業生に対しては社会的偏見があったが、それもこのビジネス系科目でのサンドイッチ・コースの創設の結果、ある程度払拭されることになる。大学のシステムをまねるだけではなく、ポリテクニク独自のコースを開拓し、開発していったところに大きな意味があり、成功したと考えられる。また、このコースを取る学生の大半が、専攻科目とそれに関連した職場での研修に意義を見だし、自己啓発にもなり、また新たな自己の能力の発見に満足しているという結果が出ており、雇用者側も学生からの新しいアイデアや熱意に満足しているという (Pratt 1997)。
- 15 Available from <http://www.insolvencyhelpline.co.uk/students/student-financial-support.htm>; Internet; accessed
- 16 最大学生数 (maximum student number: MaSN) は、法令により政府からの補助金援助を受けることのできるフルタイムの学部生、大学院教育証書 (Postgraduate Certificate of Education: PGCE) コースの学生、そしてパートタイムの教員養成 (Initial Teacher Training) コースの学生数総数の最大人数を制御することを意味しており、1993年に初めて導入され、1994/95年から適用された。イギリスではそれぞれの大学のフルタイム (イギリスの大学では、フルタイム学生数の中にサンドイッチ・コースを取る学生数が含まれる) の最低・最高入学者数を予め HEFCE が決定する。最大学生数の目的は、高等教育への公的資金を制御する方法として考えられた。当時、全フルタイム学部生と PGCE コース、パートタイムの教員養成コースの学生の95%が授業料を公的資金でまかなわれており、日常経費も公的補助金から出されていたからである。そこで、政府は審議会に学生最大数を一定数内に抑えることを指示してきた。仮に大学が HEFCE の決定に反して、決められた入学者数を上回る学生を入学させた場合には、1から4%の猶予はあるものの、超えた人数分の授業料を審議会に支払わなければならない。政府は LEAs を通じて当該大学への政府支給の授業料を最高45%まで削減可能であるため、大学の不足分は HEFCE が補填しなければならない。その結果、翌年当該大学は HEFCE からの厳しい人数削減が要請される仕組みになっている。例えば授業料は学期毎に各大学へ学生の所属する地域の LEAs を通し、コースの種類等

を考慮に入れてまとめて支払われるのであるが、新入学生数を HEFCE が決定している人数に抑えるために、1994/95年度には授業料補助金を45%削減するという方法が政府によりとられた。学生定員に足りない場合には金銭的制裁はないが、2%以上学生定員に不足した場合には、翌年の募集学生人員が減らされることになる。1999/2000年には、この最大学生数は、法的に収入査定で公費援助を受けるフルタイム、パートタイムの学部生及び大学院生を指すことになった。しかしこの入学者数の規制は、授業料を自己負担している学生には関係がない。

- 17 SLC. Student Loans Company Limited. Facts & Figures, Bristol:SLC., n.d. Available from [http://www.slc.co.uk/statistics.](http://www.slc.co.uk/statistics;); Internet; accessed 6 September 2008.
 - 18 卒業後1万5千ポンド（現在は年1万ポンド）以上の収入を得られるようになるまでは授業料返済の必要はなく、このシステムによると、例えば大学既卒生が1万8千ポンドの収入があった場合、週に5.19ポンド（約1,000円）を支払えばよいことになる。また、貧困層の学生は、年2,125ポンド以上が政府により支給される、といった内容であり、貧困層からの大学進学者に対する政府の手厚い保護も用意されている。また、1,125ポンドから3,000ポンドの間での授業料設定とは、大学毎に設定するという意味ではなく学科コース毎であり、各大学ではRAEで好成績を得たコースに高い授業料を、成績が悪かったコースには低い授業料を設定することが充分予測できる。
- 社会的統合性という側面から眺めると、旧大学における法学、神学といった伝統的諸学科は旧支配層に独占されていたが、新大学における非伝統的諸学科は新たな階層に開放され、教育の機会は拡充された。階層間の融合は促進されたといえるのかもしれない。しかしその変革に対して、学位の価値の相対的低下及び社会における大学の価値の相対的低下を恐れた旧大学は、教育評価やRAEの評価結果に相応した授業料の値上げを要求することにより、現存する新大学と旧大学の格差を顕在化させたとも理解される。確かに授業料の格差は、一方では今後学部間の格差を広げることにともつながるものの、しかしながら、結果的には新・旧大学間の格差を縮める新たな可能性も孕むものと考えられるのである。
- 19 DES 1988, DES 1989, DES 1991、
 - 20 Barr 1991, Cave, Dodsworth, and Thompson 1992, Morris 1989, Psacharopoulos and Woodhall 1985, Robbins 1980.
 - 21 ロンドン大学・経済政治学研究所（London School of Economics and Political Science: LSE）のバー（Nicholas Barr）が中心となり、トップ・アップ・フィーの導入を唱導し始めた。授業の上乗せ分を個々の大学が決定し、その金額を学生に提示し、請求する制度である。しかし、反対意見が多かったため、その代替案として全学生同額の1,000ポンドの授業料を徴収する形が採られるようになった。学生の授業料や授業料問題、その他高等教育における経済に関する問題は、バー（Nicholas Barr）が詳しい。
 - 22 大阪大学大学院経済学研究科の竹内恵行准教授及び大阪大学大学院理学研究科の伊達悦朗教授と共に実施したイギリスの大学の財政に関する研究会でのオックスフォード大学、ケンブリッジ大学、ウォリック大学、バーミンガム大学の財務報告書を基に作成。
 - 23 これにはサイド・ビジネス・スクール（Said Business School）やラドクリフ附属病院（Radcliffe Infirmary）等の建物を指す。
 - 24
 - 25 2004年にマンチェスター・ビクトリア大学とマンチェスター工科大学が統合された。

引用文献

- Barr, N. *Student Loans: The Next Steps*. Aberdeen: Aberdeen University Press, 1989.
- Barr, N. "Income-contingent Student Loans: An Idea Whose Time Has Come." In *Economics, Culture and*

- Education: Essays in Honour of Mark Blaug*, Shaw, G. K., ed., Cheltenham: Edward Elgar Publishing, 1991: 155-70.
- Barr, N. *The Welfare State as Piggy Bank*. Oxford: Oxford University Press, 2001.
- Bennett, R., Glennerster, H. and Nevinson, D. "Investing in Skill: To Stay on or Not to Stay on?" In *Oxford Review of Economic Policy* vol.8, 1992: 1-28.
- Clark, T. "The Impact of Reforms on the Quality and Responsiveness of Universities in the United Kingdom." In *Higher Education Management and Policy*, 21(2). OECD, 2009: 116-54.
- Department for Education and Employment (DfEE). *The Learning Age and Higher Education in the 21st Century: Response to the Dearing Report*. London: DfEE, 1998.
- DfEE. *Departmental Report The Government's Expenditure Plans 1996-97 to 1998-99*. Cm. 3210, London: HMSO, 1999.
- Department for Education and Skills (DfES). *The Future of Higher Education: Presented to Parliament by the Secretary of State for Education and Skills by Command of Her Majesty January 2003*. Cm. 5735. Chapter 7, London: DfES, 2003.
- Harper Adams University College. *Annual Report and Financial Statements 2007/2008*. Newport: Harper Adams University College, 2008.
- Higher Education Funding Council for England (HEFCE). *Challenge and Achievement: Annual Report 1995-96*. Bristol: HEFCE, 1996.
- HEFCE. *HEFCE Current Funding Principles*. Bristol: HEFCE, 1999.
- HEFCE. *Realising a Vision for Higher Education: Annual Review 2002-03*, Bristol: HEFCE, 2003.
- HEFCE. *Funding Higher Education in England in 2004-05*, Bristol: HEFCE, 2006.
- HEFCE. *Who We Are and What We Do*, July 2007/16. Bristol: HEFCE, 2007.
- Higher Education Statistics Agency (HESA). *Financial Statistics Return 2001/02*. Cheltenham: HESA, 2003.
- Higher Education Statistics Agency(HESA). *Financial Statistics Return 2001/02*. Cheltenham: HESA, 2003.
- HESA. *Resources of Higher Education Institutions 2003/04*. Cheltenham: HESA, 2005.
- Jackson, N. "Benchmarking in UK HE: an overview." In *Quality Assurance in Education* vol.9, Issue. 4, 2001: 218-235.
- Lambert, R. *Lambert Review of Business - University Collaboration: Final Report*. London: H.M. Treasury, 2003.
- National Committee of Inquiry into Higher Education (NCIHE). *Higher Education in the Learning Society: Report of the National Committee*. London: HMSO, 1997.
- Office for National Statistics. *Social Trends*. London: The Stationery Office, 1997.
- University of Oxford. *Financial Statements 2005/06*. Oxford: OUP, 2007.
- Watson, D. *Whatever happened to the Dearing Report? UK higher education 1997-2007*. London: Institute of Education, University of London, 2007.
- Watson, D. and Taylor, R. *Lifelong Learning and the University: A Post-Dearing Agenda*. London: The Falmer Press, 1998.
- Williams, G. *Changing Patterns of Finance in Higher Education*, Buckingham: SRHE/OUP, 1992.
- アスピノール, ロバート. 「イギリスにおける研究評価と SD の課題」 秦由美子編著『新時代を切り拓く大学評価—日本とイギリス』東京: 東信堂 2005: 191-212.
- 篠原康正. 「イギリス」『諸外国の教育の動き2004』文部科学省(編), 東京 文部科学省 2005: 25-64.
- 芝田政之. 「英国の大学における施設設備整備資金交付の仕組みと我が国の課題 — イングランド高等教育財政協議会 (HEFCE) を中心に」『大学財務経営研究』国立大学財務・経営セ

ンター 第5号 2008: 91-116.

秦由美子. 『変わりゆくイギリスの大学』 東京: 学文社 2001.

マクネイ, イアン. 「イギリスの大学における研究評価—政策、過程、成果、そして課題」 秦由美子 (編著). 『新時代を切り拓く大学評価—日本とイギリス』 東京: 東信堂 2005: 41-62.

吉田香奈「国立大学予算の配分システム: 米・英の経験と日本への援用」『国立学校財務センター研究報告』第8号、東京: 国立学校財務センター研究部、2003: 239-259.

註

表 1. イギリスの高等教育機関の収入内訳 (2001/02 年度) (単位: 千ポンド)

高等教育機関名	HEFCs からの補助金	授業料	研究補助金及び コントラクト	その他	施設賃貸料 及び食費	寄付金 及び投資	合計
England							
Anglia Polytechnic University	40,804	27,671	3,578	11,533	5,155	755	89,496
Aston University	21,292	12,951	4,762	6,878	6,778	731	53,392
University of Bath	36,114	21,600	19,789	11,284	8,453	4,014	101,254
Bath Spa University College	13,127	4,602	161	1,749	1,417	161	21,217
Birkbeck College	23,923	11,752	7,444	2,269	165	802	46,355
University of Birmingham	90,622	53,294	68,048	44,537	19,869	3,151	279,521
Bishop Grosseteste College, Lincoln	3,261	1,142	0	308	554	130	5,395
Bolton Institute of Higher Education	17,015	6,645	608	1,342	1,225	149	26,984
Arts Institute at Bournemouth	5,877	1,743	0	326	160	67	8,173
Bournemouth University	23,764	23,154	1,666	4,822	3,630	407	57,443
University of Bradford	29,999	22,918	7,149	6,285	4,891	969	72,211
University of Brighton	37,401	26,878	4,029	5,388	6,235	711	80,642
University of Bristol	77,948	31,649	56,923	29,904	10,804	2,037	209,265
Brunel University	39,362	22,192	9,523	5,567	11,228	849	88,721
Buckinghamshire Chilterns University Col	18,126	12,222	1,341	5,825	4,138	140	41,792
University of Cambridge	138,821	54,586	148,978	53,068	2,608	48,694	446,755
Institute of Cancer Research	10,829	1,319	25,910	5,071	31	3,496	46,656
Canterbury Christ Church University Col	19,202	17,609	659	8,342	4,967	37	50,816
University of Central England	43,175	37,036	2,107	5,435	6,639	166	94,558
University of Central Lancashire	51,032	30,295	2,077	8,387	6,100	109	98,000
Central School of Speech and Drama	4,291	1,353	0	265	74	113	6,096
Chester College of Higher Education	10,199	11,273	228	1,120	1,812	128	24,760
University College Chichester	10,440	3,846	339	926	2,012	131	17,694
City University, London	21,688	55,035	6,590	8,685	5,833	2,910	100,741

高等教育機関名	HEFCs からの補助金	授業料	研究補助金及び コントラクト	その他	施設賃貸料 及び食費	寄付金 及び投資	合計
Coventry University	41,269	29,380	2,032	10,654	8,011	838	92,184
Cranfield University	20,312	50,871	37,699	4,234	8,374	549	122,039
Cumbria Institute of the Arts	4,293	940	5	360	270	26	5,894
Conservatoire for Dance and Drama	3,016	557	0	0	0	5	3,578
Dartington College of Arts	2,574	545	0	121	21	95	3,356
De Montfort University	62,913	30,094	9,103	5,819	5,254	531	113,714
University of Derby	32,728	16,698	1,001	5,108	6,490	96	62,121
University of Durham	49,719	23,551	25,437	11,446	18,309	757	129,219
University of East Anglia	31,578	25,459	21,641	9,633	8,522	1,579	98,412
University of East London	34,083	19,973	1,377	6,299	4,479	314	66,525
Edge Hill College of Higher Education	16,347	4,950	74	7,664	1,789	201	31,025
Institute of Education	13,342	8,442	8,181	4,628	2,553	415	37,561
University of Essex	23,078	19,213	10,376	5,055	9,594	1,135	68,451
University of Exeter	36,799	20,053	12,311	7,965	17,852	1,222	96,202
Falmouth College of Arts	5,844	2,289	21	1,164	565	54	9,937
University of Gloucestershire	21,271	9,195	1,100	3,094	2,415	355	37,430
Goldsmiths College	22,661	13,758	2,030	1,613	3,877	401	44,340
University of Greenwich	46,540	30,845	9,118	11,022	8,155	575	106,255
Harper Adams University College	8,677	1,985	407	2,439	1,767	118	15,393
University of Hertfordshire	45,684	35,568	3,271	10,974	8,999	1,164	105,660
Homerton College, Cambridge	0	0	0	5,295	0	74	5,369
University of Huddersfield	37,463	15,554	2,062	15,730	4,600	722	76,131
University of Hull	37,593	26,397	9,639	11,729	8,295	828	94,481
Imperial College	112,966	44,185	152,984	52,181	15,474	3,440	381,230
Keele University	21,046	14,462	8,752	11,454	7,170	1,731	64,615
University of Kent at Canterbury	30,612	19,167	8,473	7,279	11,216	1,117	77,864
Kent Institute of Art & Design	7,970	3,814	51	938	2,031	30	14,834
King Alfred's College, Winchester	8,950	4,880	155	704	3,398	85	18,172
King's College London	103,361	48,404	91,426	54,245	12,203	9,176	318,815

高等教育機関名	HEFCs からの補助金	授業料	研究補助金及び コントラクト	その他	施設賃貸料 及び食費	寄付金 及び投資	合計
Kingston University	42,379	30,650	1,444	6,570	8,630	1,043	90,716
Lancaster University	33,992	18,269	14,353	16,560	10,869	1,394	95,437
University of Leeds	105,665	62,146	71,058	37,549	21,837	4,352	302,607
Leeds Metropolitan University	56,754	28,507	1,762	8,138	5,599	458	101,218
University of Leicester	43,482	31,816	36,044	20,676	12,478	1,346	145,842
University of Lincoln	33,811	10,182	508	9,165	5,440	124	59,230
University of Liverpool	74,612	33,535	53,271	28,254	11,124	4,854	205,650
Liverpool Hope University College	14,935	6,234	144	6,202	3,690	20	31,225
Liverpool John Moores University	55,675	26,253	3,779	15,018	2,314	579	103,618
University of London	13,657	3,590	2,771	60,454	12,029	5,133	97,634
London Business School	3,055	43,605	4,876	4,115	5,483	784	61,918
London Sch of Economics & Political Sci	18,748	48,007	12,205	10,842	12,966	1,576	104,344
London Sch. of Hygiene & Tropical Med.	9,593	5,837	30,247	3,642	334	557	50,210
The London Institute	48,545	34,177	1,189	3,134	4,002	645	91,692
London Metropolitan University	70,167	38,402	3,814	7,929	3,406	490	124,208
London South Bank University	39,476	39,015	4,828	4,228	5,686	1,527	94,760
Loughborough University	44,875	22,279	24,911	8,894	19,508	1,402	121,869
University of Luton	20,865	21,107	1,354	3,058	4,559	132	51,075
University of Manchester	100,378	72,227	77,059	46,686	26,171	6,053	328,574
UMIST	38,927	22,878	26,916	15,490	10,932	1,924	117,067
Manchester Metropolitan University	79,909	33,348	5,746	7,863	11,151	1,627	139,644
Middlesex University	53,012	43,283	1,475	13,828	6,665	217	118,480
University of Newcastle	76,385	30,579	50,747	40,607	12,070	2,541	212,929
Newman College of Higher Education	4,553	1,336	0	410	808	22	7,129
University College Northampton	21,077	14,178	1,025	2,350	3,622	372	42,624
Northern School of Contemporary Dance	1,372	218	0	108	0	11	1,709

高等教育機関名	HEFCs からの補助金	授業料	研究補助金及び コントラクト	その他	施設賃貸料 及び食費	寄付金 及び投資	合計
Northumbria University	44,753	41,671	6,068	8,485	7,843	214	109,034
Norwich School of Art & Design	3,178	923	0	460	101	72	4,734
University of Nottingham	76,990	65,580	64,659	28,041	29,233	799	265,302
Nottingham Trent University	56,628	33,537	3,798	13,022	6,416	972	114,373
Open University	158,313	105,596	13,776	19,339	0	5,244	302,268
School of Oriental and African Studies	10,967	15,577	2,445	3,270	972	714	33,945
University of Oxford	134,739	47,574	149,744	60,037	4,801	29,654	426,549
Oxford Brookes University	32,068	33,282	4,351	9,021	11,513	469	90,704
School of Pharmacy	5,049	2,109	3,039	293	182	59	10,731
University of Plymouth	59,853	28,209	7,453	12,250	4,539	638	112,942
University of Portsmouth	46,090	29,185	4,645	5,534	6,487	682	92,623
Queen Mary, University of London	53,861	22,217	34,021	21,145	7,603	757	139,604
Ravensbourne College	4,634	1,675	0	564	244	71	7,188
RCN Institute	1,422	601	665	6,848	0	89	9,625
University of Reading	42,102	26,105	21,805	13,615	16,537	3,641	123,805
Rose Bruford College	2,854	1,156	0	120	70	27	4,227
Royal Academy of Music	4,053	3,602	0	1,039	339	2,687	11,720
Royal Agricultural College	2,458	944	74	1,671	2,521	4	7,672
Royal College of Art	11,070	3,915	1,222	1,752	560	820	19,339
Royal College of Music	4,399	2,762	0	1,544	729	2,103	11,537
Royal Holloway, University of London	22,753	15,675	8,830	2,894	11,722	1,315	63,189
Royal Northern College of Music	4,901	1,792	0	1,973	555	73	9,294
Royal Veterinary College	12,166	3,168	4,272	6,778	877	693	27,954
St George's Hospital Medical School	14,770	6,791	16,573	15,780	560	-286	54,188
College of St Mark & St John	7,736	3,925	13	1,381	1,543	100	14,698
St Martin's College	17,812	12,597	30	2,020	2,897	13	35,369
St Mary's College	8,125	3,224	97	266	3,028	52	14,792
University of Salford	45,976	38,131	6,031	16,123	8,454	439	115,154

高等教育機関名	HEFCs からの補助金	授業料	研究補助金及び コントラクト	その他	施設賃貸料 及び食費	寄付金 及び投資	合計
University of Sheffield	79,284	54,326	64,108	22,871	15,270	2,129	237,988
Sheffield Hallam University	62,408	33,967	7,367	10,255	5,200	613	119,810
University of Southampton	75,114	44,874	70,397	24,023	17,849	1,539	233,796
Southampton Institute	28,772	16,650	327	2,032	8,092	428	56,301
Staffordshire University	41,998	19,190	3,468	4,840	4,993	269	74,758
University of Sunderland	37,752	16,573	3,171	10,289	5,463	77	73,325
The Surrey Inst of Art & Design Univ Col	10,921	4,427	0	1,581	1,194	0	18,123
University of Surrey	31,159	34,649	22,511	23,671	10,200	9,263	131,453
University of Surrey Roehampton	20,200	9,694	1,321	1,833	6,779	373	40,200
University of Sussex	36,714	18,235	20,988	10,351	7,791	547	94,626
University of Teesside	30,453	21,905	1,194	6,780	2,592	427	63,351
Thames Valley University	27,955	27,599	339	4,083	606	409	60,991
Trinity & All Saints	6,700	2,815	0	267	1,876	252	11,910
Trinity College of Music	3,024	1,921	74	1,449	0	93	6,561
University College London	127,862	59,538	148,034	76,858	13,252	5,966	431,510
University of Warwick	50,591	48,631	28,057	42,406	20,653	1,141	191,479
University of West of England, Bristol	51,419	23,622	4,420	23,586	8,803	2,578	114,428
University of Westminster	48,964	35,372	4,021	6,738	6,583	1,147	102,825
Wimbledon School of Art	4,065	1,130	51	206	74	14	5,540
University of Wolverhampton	47,772	26,281	2,284	13,360	5,240	1,721	96,658
University College Worcester	9,734	7,423	771	870	1,204	57	20,059
Writtle College	8,697	2,323	18	2,427	2,091	13	15,569
University of York	32,809	22,309	27,811	15,597	13,696	1,097	113,319
York St John College	9,867	7,085	14	1,130	3,292	395	21,783
Scotland							
University of Aberdeen	51,680	20,020	33,554	10,286	7,762	1,659	124,961
University of Abertay Dundee	15,721	7,187	1,224	3,563	1,382	353	29,430

高等教育機関名	HEFCs からの補助金	授業料	研究補助金及び コントラクト	その他	施設賃貸料 及び食費	寄付金 及び投資	合計
Bell College of Technology	7,718	6,219	0	1,594	586	86	16,203
University of Dundee	47,438	23,443	38,493	16,095	4,654	653	130,776
University of Edinburgh	113,600	43,101	87,833	43,894	17,639	8,001	314,068
Edinburgh College of Art	7,494	3,316	854	1,028	195	244	13,131
University of Glasgow	106,484	35,178	76,379	29,005	10,770	7,029	264,845
Glasgow Caledonian University	39,031	12,971	3,294	18,469	2,407	258	76,430
Glasgow School of Art	8,177	2,981	558	265	347	114	12,442
Heriot-Watt University	30,401	17,617	12,451	11,715	9,605	280	82,069
University of the Highlands and Islands	14,744	3,207	4,413	10,116	0	156	32,636
Napier University	34,143	20,683	1,868	4,671	3,605	445	65,415
Northern College of Education	2,891	1,029	5	438	299	76	4,738
University of Paisley	28,321	13,478	1,903	3,245	1,557	591	49,095
Queen Margaret University Col Edinburgh	11,540	5,569	1,834	996	2,166	136	22,241
Robert Gordon University	27,925	16,088	1,625	24,406	2,554	804	73,402
Royal Scottish Academy of Music & Drama	5,197	1,473	91	1,022	183	184	8,150
Scottish Agricultural College	19,131	2,300	7,147	15,993	1,253	7	45,831
University of St Andrews	25,949	14,855	17,287	4,693	9,126	1,314	73,224
University of Stirling	25,697	16,813	7,036	7,491	7,738	834	65,609
University of Strathclyde	70,171	41,671	22,672	13,356	8,836	2,059	158,765
Wales							
University of Glamorgan	37,108	17,548	2,247	8,370	4,764	422	70,459
University of Wales, Aberystwyth	29,269	10,828	9,980	7,708	8,852	2,289	68,926
University of Wales, Bangor	31,364	16,358	9,777	10,895	6,307	534	75,235
Cardiff University	65,862	35,841	39,548	9,958	13,566	3,131	167,906
University of Wales, Lampeter	5,652	1,787	265	595	1,296	247	9,842
University of Wales, Swansea	36,877	19,116	10,295	16,172	8,314	806	91,580

高等教育機関名	HEFCs からの補助金	授業料	研究補助金及び コントラクト	その他	施設賃貸料 及び食費	寄付金 及び投資	合計
University of Wales College of Medicine	17,974	15,256	14,218	27,921	386	1,613	77,368
University of Wales Institute, Cardiff	22,145	10,034	721	8,726	3,881	122	45,629
University of Wales College, Newport	17,513	4,936	121	2,719	2,262	234	27,785
North East Wales Institute	13,250	4,630	531	933	1,165	219	20,728
Swansea Institute of Higher Education	11,885	3,939	37	785	1,020	227	17,893
Trinity College	5,295	1,475	0	968	1,741	47	9,526
Royal Welsh College of Music and Drama	4,826	1,199	0	380	203	24	6,632
Uni of Wales Centre for Adv. Welsh & Cel	562	120	244	4,474	787	782	6,969
Northern Ireland							
Queen's University Belfast	67,555	32,521	27,086	25,574	4,828	1,297	158,861
St Mary's University College	4,251	1,001	66	120	0	1	5,439
Stranmillis University College	4,416	1,165	112	168	903	38	6,802
University of Ulster	71,979	23,527	11,131	9,737	3,910	474	120,758
総計	5,692,090	3,338,194	2,433,418	1,801,245	967,802	258,126	14,490,875

出典: HESA, *Finance Statistics Return 2001-02*. Cheltenham: HESA, 2003. を基に作成

表 2. 上記表中の高等教育機関の中から、旧大学と新大学及び高等教育カレッジや研究所 (Institute) を選択した後、分類し、各グループで集計した収入内訳が下記表である。

旧大学							
Aston University	21,292	12,951	4,762	6,878	6,778	731	53,392
University of Bath	36,114	21,600	19,789	11,284	8,453	4,014	101,254
Birkbeck College	23,923	11,752	7,444	2,269	165	802	46,355
University of Birmingham	90,622	53,294	68,048	44,537	19,869	3,151	279,521
University of Bradford	29,999	22,918	7,149	6,285	4,891	969	72,211
University of Bristol	77,948	31,649	56,923	29,904	10,804	2,037	209,265
Brunel University	39,362	22,192	9,523	5,567	11,228	849	88,721
University of Cambridge	138,821	54,586	148,978	53,068	2,608	48,694	446,755
Institute of Cancer Research	10,829	1,319	25,910	5,071	31	3,496	46,656
Central School of Speech and Drama	4,291	1,353	0	265	74	113	6,096
Chester College of Higher Education	10,199	11,273	228	1,120	1,812	128	24,760

City University, London	21,688	55,035	6,590	8,685	5,833	2,910	100,741
Cranfield University	20,312	50,871	37,699	4,234	8,374	549	122,039
Cumbria Institute of the Arts	4,293	940	5	360	270	26	5,894
Conservatoire for Dance and Drama	3,016	557	0	0	0	5	3,578
University of Durham	49,719	23,551	25,437	11,446	18,309	757	129,219
University of East Anglia	31,578	25,459	21,641	9,633	8,522	1,579	98,412
Institute of Education	13,342	8,442	8,181	4,628	2,553	415	37,561
University of Essex	23,078	19,213	10,376	5,055	9,594	1,135	68,451
University of Exeter	36,799	20,053	12,311	7,965	17,852	1,222	96,202
Goldsmiths College	22,661	13,758	2,030	1,613	3,877	401	44,340
Harper Adams University College	8,677	1,985	407	2,439	1,767	118	15,393
Homerton College, Cambridge	0	0	0	5,295	0	74	5,369
University of Hull	37,593	26,397	9,639	11,729	8,295	828	94,481
Imperial College	112,966	44,185	152,984	52,181	15,474	3,440	381,230
Keele University	21,046	14,462	8,752	11,454	7,170	1,731	64,615
University of Kent at Canterbury	30,612	19,167	8,473	7,279	11,216	1,117	77,864
King's College London	103,361	48,404	91,426	54,245	12,203	9,176	318,815
Lancaster University	33,992	18,269	14,353	16,560	10,869	1,394	95,437
University of Leeds	105,665	62,146	71,058	37,549	21,837	4,352	302,607
University of Leicester	43,482	31,816	36,044	20,676	12,478	1,346	145,842
University of Liverpool	74,612	33,535	53,271	28,254	11,124	4,854	205,650
University of London	13,657	3,590	2,771	60,454	12,029	5,133	97,634
London Business School	3,055	43,605	4,876	4,115	5,483	784	61,918
London Sch of Economics & Political Sci	18,748	48,007	12,205	10,842	12,966	1,576	104,344
London Sch. of Hygiene & Tropical Med.	9,593	5,837	30,247	3,642	334	557	50,210
The London Institute	48,545	34,177	1,189	3,134	4,002	645	91,692
Loughborough University	44,875	22,279	24,911	8,894	19,508	1,402	121,869
University of Manchester	100,378	72,227	77,059	46,686	26,171	6,053	328,574
University of Newcastle	76,385	30,579	50,747	40,607	12,070	2,541	212,929
University of Nottingham	76,990	65,580	64,659	28,041	29,233	799	265,302
Open University	158,313	105,596	13,776	19,339	0	5,244	302,268
School of Oriental and African Studies	10,967	15,577	2,445	3,270	972	714	33,945
University of Oxford	134,739	47,574	149,744	60,037	4,801	29,654	426,549
Queen Mary, University of London	53,861	22,217	34,021	21,145	7,603	757	139,604
University of Reading	42,102	26,105	21,805	13,615	16,537	3,641	123,805

Royal Academy of Music	4,053	3,602	0	1,039	339	2,687	11,720
Royal Agricultural College	2,458	944	74	1,671	2,521	4	7,672
Royal College of Art	11,070	3,915	1,222	1,752	560	820	19,339
Royal College of Music	4,399	2,762	0	1,544	729	2,103	11,537
Royal Holloway, University of London	22,753	15,675	8,830	2,894	11,722	1,315	63,189
Royal Veterinary College	12,166	3,168	4,272	6,778	877	693	27,954
St George's Hospital Medical School	14,770	6,791	16,573	15,780	560	-286	54,188
University of Salford	45,976	38,131	6,031	16,123	8,454	439	115,154
University of Sheffield	79,284	54,326	64,108	22,871	15,270	2,129	237,988
University of Southampton	75,114	44,874	70,397	24,023	17,849	1,539	233,796
University of Sunderland	37,752	16,573	3,171	10,289	5,463	77	73,325
University of Surrey	31,159	34,649	22,511	23,671	10,200	9,263	131,453
University of Sussex	36,714	18,235	20,988	10,351	7,791	547	94,626
University of Teesside	30,453	21,905	1,194	6,780	2,592	427	63,351
Trinity & All Saints	6,700	2,815	0	267	1,876	252	11,910
Trinity College of Music	3,024	1,921	74	1,449	0	93	6,561
University College London	127,862	59,538	148,034	76,858	13,252	5,966	431,510
University of Warwick	50,591	48,631	28,057	42,406	20,653	1,141	191,479
Wimbledon School of Art	4,065	1,130	51	206	74	14	5,540
University of York	32,809	22,309	27,811	15,597	13,696	1,097	113,319
合計	2,707,272	1,707,976	1,833,284	1,073,698	540,517	192,233	8,054,980
新大学							
Anglia Polytechnic University	40,804	27,671	3,578	11,533	5,155	755	89,496
Bath Spa University College	13,127	4,602	161	1,749	1,417	161	21,217
Bournemouth University	23,764	23,154	1,666	4,822	3,630	407	57,443
University of Brighton	37,401	26,878	4,029	5,388	6,235	711	80,642
Buckinghamshire Chilterns University Col	18,126	12,222	1,341	5,825	4,138	140	41,792
Canterbury Christ Church University Col	19,202	17,609	659	8,342	4,967	37	50,816
University of Central England	43,175	37,036	2,107	5,435	6,639	166	94,558
University of Central Lancashire	51,032	30,295	2,077	8,387	6,100	109	98,000
University College Chichester	10,440	3,846	339	926	2,012	131	17,694
Coventry University	41,269	29,380	2,032	10,654	8,011	838	92,184
De Montfort University	62,913	30,094	9,103	5,819	5,254	531	113,714
University of Derby	32,728	16,698	1,001	5,108	6,490	96	62,121

University of East London	34,083	19,973	1,377	6,299	4,479	314	66,525
University of Gloucestershire	21,271	9,195	1,100	3,094	2,415	355	37,430
University of Greenwich	46,540	30,845	9,118	11,022	8,155	575	106,255
University of Hertfordshire	45,684	35,568	3,271	10,974	8,999	1,164	105,660
University of Huddersfield	37,463	15,554	2,062	15,730	4,600	722	76,131
Kingston University	42,379	30,650	1,444	6,570	8,630	1,043	90,716
Leeds Metropolitan University	56,754	28,507	1,762	8,138	5,599	458	101,218
University of Lincoln	33,811	10,182	508	9,165	5,440	124	59,230
Liverpool John Moores University	55,675	26,253	3,779	15,018	2,314	579	103,618
London Metropolitan University	70,167	38,402	3,814	7,929	3,406	490	124,208
London South Bank University	39,476	39,015	4,828	4,228	5,686	1,527	94,760
University of Luton	20,865	21,107	1,354	3,058	4,559	132	51,075
UMIST	38,927	22,878	26,916	15,490	10,932	1,924	117,067
Manchester Metropolitan University	79,909	33,348	5,746	7,863	11,151	1,627	139,644
Middlesex University	53,012	43,283	1,475	13,828	6,665	217	118,480
University College Northampton	21,077	14,178	1,025	2,350	3,622	372	42,624
Northumbria University	44,753	41,671	6,068	8,485	7,843	214	109,034
Nottingham Trent University	56,628	33,537	3,798	13,022	6,416	972	114,373
Oxford Brookes University	32,068	33,282	4,351	9,021	11,513	469	90,704
University of Plymouth	59,853	28,209	7,453	12,250	4,539	638	112,942
University of Portsmouth	46,090	29,185	4,645	5,534	6,487	682	92,623
Sheffield Hallam University	62,408	33,967	7,367	10,255	5,200	613	119,810
Staffordshire University	41,998	19,190	3,468	4,840	4,993	269	74,758
The Surrey Inst of Art & Design Univ Col	10,921	4,427	0	1,581	1,194	0	18,123
Thames Valley University	27,955	27,599	339	4,083	606	409	60,991
University of West of England, Bristol	51,419	23,622	4,420	23,586	8,803	2,578	114,428
University of Westminster	48,964	35,372	4,021	6,738	6,583	1,147	102,825
University of Wolverhampton	47,772	26,281	2,284	13,360	5,240	1,721	96,658
University College Worcester	9,734	7,423	771	870	1,204	57	20,059
合計	1,631,637	1,022,188	146,657	328,369	227,321	25,474	3,381,646
高等教育カレッジ・研究所							
Bolton Institute of Higher Education	17,015	6,645	608	1,342	1,225	149	26,984

Arts Institute at Bournemouth	5,877	1,743	0	326	160	67	8,173
Dartington College of Arts	2,574	545	0	121	21	95	3,356
Edge Hill College of Higher Education	16,347	4,950	74	7,664	1,789	201	31,025
Falmouth College of Arts	5,844	2,289	21	1,164	565	54	9,937
Kent Institute of Art & Design	7,970	3,814	51	938	2,031	30	14,834
King Alfred's College, Winchester	8,950	4,880	155	704	3,398	85	18,172
Liverpool Hope University College	14,935	6,234	144	6,202	3,690	20	31,225
Ravensbourne College	4,634	1,675	0	564	244	71	7,188
Rose Bruford College	2,854	1,156	0	120	70	27	4,227
College of St Mark & St John	7,736	3,925	13	1,381	1,543	100	14,698
St Mary's College	8,125	3,224	97	266	3,028	52	14,792
Southampton Institute	28,772	16,650	327	2,032	8,092	428	56,301
Writtle College (継続・高等教育カレッジ)	8,697	2,323	18	2,427	2,091	13	15,569
York St John College (高等教育カレッジ)	9,867	7,085	14	1,130	3,292	395	21,783
合計	150,197	67,138	1,522	26,381	31,239	1,787	278,264

表 3. 各高等教育機関の内訳合計

	HEFCE から の補助金	授業料	研究補助金及び コントラクト	その他	施設賃貸料 及び食費	寄付金 及び投資	合計
新大学	1,631,637	1,022,188	146,657	328,369	227,321	25,474	3,381,646
割合	48.2%	30.2%	4.4%	9.7%	6.7%	0.8%	100.0%
旧大学	2,707,272	1,707,976	1,833,284	1,073,698	540,517	192,233	8,054,980
割合	33.6%	21.2%	22.8%	13.3%	6.7%	2.4%	100.0%
高等教育カレッジ・研究所	153,458	68,280	1,522	26,689	31,793	1,917	283,659
割合	54.1%	24.1%	0.5%	9.4%	11.2%	0.7%	100.0%

1994/95 年度の大学収入内訳

表 4. 旧大学 (Old Universities)

	Funding Council Grants	Academic Fees & Support Grants	Research Grants & Contracts	Other Services Rendered	Other General Operating Income	Endowment Income & Interest Receivable	Total Income
O4	18,898	7,272	3,401	1,251	6,999	1,360	39,181
O6	26,909	11,572	12,701	3,775	7,757	931	63,645
O7	18,481	6,313	4,268	577	1,174	1,204	32,017
O8	70,349	38,688	38,465	10,388	28,642	5,968	192,500
O12	25,245	17,233	6,555	1,990	6,428	710	58,161
O15	56,156	26,233	34,654	6,833	20,705	4,370	148,951
O17	31,888	16,586	8,121	2,081	10,921	858	70,455
O19	85,667	35,799	83,159	7,122	12,869	27,478	252,094
O23	2,497	1,554	4	0	93	92	4,240
O26	6,842	7,153	19	152	2,929	107	17,202
O28	19,480	17,579	5,389	1,544	7,495	1,505	52,992
O31	16,771	36,427	30,380	0	11,109	1,024	95,711
O35	34,001	16,357	11,768	2,928	16,031	2,211	83,296
O36	25,750	14,576	11,540	935	8,288	1,233	62,322
O39	17,397	11,458	7,052	1,299	7,714	1,695	46,615
O40	32,043	15,561	8,554	606	15,354	539	72,657
O42	16,688	8,852	998	306	2,661	261	29,766
O44	5,187	2,443	346	2,478	1,214	25	11,693
O48	28,062	16,177	6,616	1,827	11,542	1,304	65,528
O50	62,581	25,534	62,447	3,295	26,843	2,728	183,428
O52	9,556	5,712	3,567	1,574	2,158	487	23,054
O53	4,634	1,300	10,778	506	3,831	211	21,260
O54	17,415	9,757	7,478	1,253	12,521	838	49,262
O55	21,409	13,711	9,722	3,620	13,278	1,027	62,767
O58	47,185	30,357	30,397	2,757	22,344	1,601	134,641
O61	29,672	12,730	9,376	8,194	14,285	1,029	75,286
O63	75,321	38,099	38,270	14,628	30,446	4,805	201,569
O64	36,213	20,363	22,617	2,897	18,673	1,887	102,650
O67	63,368	25,802	28,985	6,601	17,817	4,674	147,247
O68	2,839	15,376	3,416	1,377	3,043	340	26,391
O69	29,539	10,967	155	467	1,487	353	42,968
O70	10,947	2,614	7,013	929	7,352	426	29,281
O71	38,020	13,924	38	2,745	2,822	179	57,728
O72	16,951	23,789	9,003	668	6,655	4,224	61,290
O73	7,261	3,385	12,948	1,334	1,112	521	26,561
O74	22,532	13,566	3,063	4,877	22,066	3,399	69,503
O80	86,133	45,527	43,600	7,902	46,153	5,558	234,873
O83	57,888	24,033	30,812	7,975	17,923	2,365	140,996
O89	59,682	27,552	32,610	8,630	20,899	4,271	153,644
O90	117,272	62,978	3,320	1,912	7,737	3,268	196,487
O92	83,065	31,624	93,796	11,114	26,890	14,226	260,715
O105	18,428	8,551	4,808	631	9,199	1,371	42,988
O107	11,957	2,040	18,731	8,097	9,724	909	51,458
O108	6,919	1,963	3,203	0	3,332	607	16,024
O110	11,942	2,849	10,237	7,392	2,237	916	35,573
O115	24,060	12,817	5,718	4,926	16,292	927	64,740
O116	9,929	8,976	2,449	0	547	796	22,697
O117	4,334	1,206	1,887	56	291	102	7,876
O119	59,849	37,872	30,796	6,123	21,184	3,743	159,567
O122	51,165	22,273	33,614	8,562	17,041	1,787	134,442
O124	29,206	15,524	849	4,702	6,066	393	56,740
O126	24,672	17,446	14,389	3,516	11,846	8,018	79,887
O127	31,243	15,299	14,512	829	7,702	1,194	70,779
O128	22,365	12,785	615	2,136	3,638	550	42,089
O133	70,144	30,462	60,544	18,193	19,186	4,127	202,656
O134	42,049	25,895	17,522	5,523	32,125	1,698	124,812
O146	23,976	11,148	16,345	1,935	11,570	1,699	66,673
total	1,880,032	993,639	973,620	213,968	678,240	140,129	4,879,628

表5. 高等教育カレッジ (Higher education colleges)

	Funding Council Grants	Academic Fees & Support Grants	Research Grants & Contracts	Other Services Rendered	Other General Operating Income	Endowment Income & Interest Receivable	Total Income
HEC9	3,115	1,099	0	461	643	82	5,400
HEC10	13,608	7,289	681	891	2,673	184	25,326
HEC13	5,162	3,275	0	50	1,373	85	9,945
HEC18	15,089	6,543	70	2,512	6,232	353	30,799
HEC25	16,428	10,347	501	416	3,685	358	31,735
HEC29	348	343	0	114	55	8	868
HEC32	1,526	723	6	0	63	105	2,423
HEC38	9,638	5,016	30	2,425	1,733	134	18,976
HEC41	3,596	1,728	0	305	196	70	5,895
HEC46	4,173	1,541	414	2,076	1,313	242	9,759
HEC51	1,773	1,136	0	116	805	21	3,851
HEC56	6,378	3,601	0	0	1,643	123	11,745
HEC57	6,942	3,507	40	154	6,290	43	16,976
HEC60	4,830	2,179	68	0	1,227	23	8,327
HEC65	9,184	5,105	0	0	1,947	357	16,593
HEC75	0	0	0	0	0	0	0
HEC76	33,077	18,560	15,485	4,621	12,903	3,345	87,991
HEC82	18,118	12,567	139	726	3,094	296	34,940
HEC84	2,692	1,417	96	0	791	32	5,028
HEC86	3,234	1,233	0	0	840	42	5,349
HEC95	29,295	11,764	11,155	1,618	4,859	1,217	59,908
HEC96	2,612	1,064	0	0	469	5	4,150
HEC97	37,366	22,368	14,509	3,862	15,884	3,076	97,065
HEC98	7,704	4,752	0	0	3,842	111	16,409
HEC99	17,997	6,922	622	774	4,333	155	30,803
HEC100	1,517	606	0	0	15	63	2,201
HEC101	2,756	1,995	0	0	1,439	119	6,309
HEC102	8,296	2,755	779	509	1,865	111	14,315
HEC103	2,669	1,596	0	115	1,020	3	5,403
HEC104	8,167	1,774	11,963	685	3,052	421	26,062
HEC106	3,262	1,327	0	0	2,008	46	6,643
HEC109	6,522	1,597	12,502	0	6,146	562	27,329
HEC111	5,427	4,436	0	946	1,916	142	12,867
HEC112	7,213	6,183	157	117	2,074	53	15,797
HEC113	6,157	2,831	21	231	1,975	87	11,302
HEC114	15,120	7,626	87	5,184	1,976	146	30,139
HEC121	21,520	15,661	289	301	3,190	745	41,706
HEC130	5,289	2,496	0	76	1,813	114	9,788
HEC131	1,736	984	0	0	510	29	3,259
HEC135	0	0	0	0	0	0	0
HEC137	2,973	1,469	83	0	930	92	5,547
HEC140	2,251	876	21	0	105	31	3,283
HEC141	2,223	1,479	0	0	464	1	4,167
HEC143	6,855	3,361	84	53	1,562	332	12,247
HEC144	3,936	2,268	42	0	2,493	27	8,766
HEC145	3,725	2,639	2,068	1,222	2,207	168	12,029
total	371,499	198,038	71,912	30,560	113,653	13,759	799,420

表 6. 新大学 (New Universities)

	Funding Council Grants	Academic Fees & Support Grants	Research Grants & Contracts	Other Services Rendered	Other General Operating Income	Endowment Income & Interest Receivable	Total Income
N3	28,447	24,172	781	2,015	5,253	868	61,535
N5	7,983	2,830	21	0	2,413	291	13,538
N11	16,666	15,087	787	905	2,661	100	36,206
N14	31,499	18,856	1,440	2,751	5,035	696	60,277
N20	9,782	15,959	307	623	2,360	499	29,530
N21	34,885	17,648	435	2,029	6,294	577	61,868
N22	36,028	13,672	632	215	7,966	397	58,910
N27	6,933	3,996	117	158	1,224	278	12,706
N30	36,617	21,569	1,535	2,586	6,311	1,170	69,788
N33	53,906	27,881	4,509	4,328	7,539	1,053	99,216
N34	18,927	12,307	843	696	4,974	1,187	38,934
N37	29,961	16,585	406	1,351	4,651	550	53,504
N43	40,077	23,875	2,498	2,642	6,624	2,505	78,221
N45	44,124	27,652	3,067	613	11,716	1,510	88,682
N47	26,954	13,350	728	3,430	3,058	582	48,102
N49	25,248	12,894	232	645	3,871	1,026	43,916
N59	35,045	18,178	552	2,681	5,144	1,706	63,306
N62	37,821	16,254	1,153	5,396	5,191	1,749	67,564
N66	43,317	24,440	2,109	2,139	7,286	821	80,112
N77	17,186	14,260	263	468	5,604	38	37,819
N78	27,925	18,615	14,989	5,396	10,199	2,870	79,994
N79	63,468	29,619	2,896	3,617	9,354	1,210	110,164
N81	40,570	20,699	8,950	0	9,946	368	80,533
N85	31,350	13,468	500	762	3,978	332	50,390
N87	39,850	19,959	1,770	2,370	15,446	463	79,858
N88	47,017	27,242	1,605	6,240	6,379	1,181	89,664
N91	24,251	17,049	1,589	1,820	13,601	2,125	60,435
N93	40,420	20,314	2,834	2,267	6,789	381	73,005
N94	34,979	25,465	3,178	4,588	5,484	938	74,632
N118	51,357	24,493	3,499	3,326	8,204	2,632	93,511
N120	40,564	29,540	1,882	251	4,706	342	77,285
N123	30,021	15,975	1,666	744	6,471	349	55,226
N125	7,204	3,583	0	7	1,100	213	12,107
N129	24,951	20,645	66	931	1,041	93	47,727
N132	24,131	5,658	23,925	3,404	10,181	2,857	70,156
N136	42,243	21,820	2,800	1,950	8,701	1,258	78,772
N138	3,831	1,795	0	266	2,269	127	8,288
N139	40,988	21,209	2,143	2,804	1,698	1,089	69,931
N142	37,652	16,825	563	6,459	6,600	1,732	69,831
total	1,234,178	695,438	97,270	82,873	237,322	38,163	2,385,243

出典：HESA. *Resources of Higher Education Institutions* 1994/95. Cheltenham: HESA, 1996.

2000/01 年度の大学収入内訳

表 7. 旧大学 (Old Universities)

	Funding council grants	Tuition fees & education grants & contracts	Research grants & contracts	Other income- other services rendered	Other income- other	Endowment & investment income	Total income
O4	19,849	11,025	5,101	2,487	10,273	897	49,632
O6	32,858	19,365	17,208	5,699	11,208	2,507	88,845
O7	21,928	9,424	4,873	495	2,331	1,123	40,174
O8	84,018	47,302	62,916	12,165	44,985	4,054	255,440
O12	28,273	20,303	6,644	2,020	8,845	660	66,745
O Univ. of Bristol15	70,576	28,448	51,284	10,303	28,595	2,564	191,770
O16	37,681	20,733	7,645	1,008	15,346	1,237	83,650
O18Cambridge	127,326	49,780	126,425	10,364	33,840	48,784	396,519
O19	9,436	1,164	23,366	0	4,423	3,565	41,954
O23	4,012	1,301	0	0	329	117	5,759
O24	8,757	10,836	174	118	2,638	117	22,640
O26	20,054	42,670	4,851	1,646	9,539	3,311	82,071
O28	19,321	50,797	34,322	0	12,272	759	117,471
O29	3,754	860	4	182	641	48	5,489
O33	45,361	22,558	21,228	7,567	20,818	1,057	118,589
O34	29,363	23,022	19,568	1,780	14,542	1,879	90,154
O37	20,916	17,201	11,050	715	12,706	1,356	63,944
O38	33,645	18,618	11,696	1,608	21,896	1,414	88,877
O41	23,442	12,957	1,577	763	4,777	341	43,857
O43	7,439	1,966	356	1,406	2,412	168	13,747
O47	34,943	23,952	9,063	2,820	19,187	1,302	91,267
O48	111,754	40,290	146,428	8,880	69,738	3,671	380,761
O50	12,714	7,043	7,582	2,653	3,481	561	34,034
O51	20,112	13,819	7,886	1,132	16,515	2,188	61,652
O52	25,800	16,993	8,489	2,765	15,684	1,126	70,857
O55	97,907	43,716	87,205	25,712	42,168	4,836	301,544
O57	32,417	15,377	13,089	12,309	15,328	1,362	89,882
O59	92,332	54,562	61,932	11,800	48,416	4,585	273,627
O60	40,366	27,584	33,123	2,771	25,637	1,384	130,865
O64	69,852	31,488	46,336	12,298	26,802	5,862	192,638
O65	3,452	36,961	4,461	2,135	7,903	762	55,674
O66	13,137	3,295	2,300	12,439	56,017	4,940	92,128
O67	31,372	16,394	145	284	3,946	300	52,441
O69	18,312	41,150	11,494	3,533	20,623	3,107	98,219
O70	8,739	5,464	22,583	2,462	1,239	555	41,042
O71	42,846	19,869	24,590	6,644	19,241	1,657	114,847
O73	94,927	69,491	69,453	9,187	62,990	9,556	315,604
O77	67,924	27,174	45,080	11,129	34,224	3,816	189,347
O85	68,264	59,364	58,304	11,919	42,122	1,520	241,493
O86	142,677	101,860	18,855	1,139	18,114	7,332	289,977
O88	128,461	42,478	142,430	10,110	47,984	36,260	407,723
O91	48,433	18,128	30,330	17,009	8,909	1,509	124,318
O93	39,957	24,828	20,832	4,043	24,228	4,097	117,985
O94	19,022	9,486	1,203	1,879	6,058	465	38,113
O96	3,938	3,387	0	0	804	2,614	10,743
O97	10,405	3,579	1,276	771	1,448	779	18,258
O98	4,130	2,844	0	376	2,131	872	10,353
O101	10,886	2,926	3,993	0	7,138	903	25,846
O102	15,971	2,998	16,259	859	13,981	283	50,351
O106	43,854	33,443	6,363	11,758	15,322	411	111,151
O107	10,957	15,206	2,131	0	3,642	972	32,908
O108	4,783	1,859	2,244	142	308	142	9,478
O110	73,596	49,543	58,268	9,860	30,003	3,329	224,599
O113	71,252	40,512	59,341	13,311	27,641	2,294	214,351
O115	37,008	14,365	2,572	5,504	11,840	16	71,305
O117	29,478	31,218	19,845	14,352	12,819	8,812	116,524
O118	35,103	17,003	16,308	1,443	15,108	819	85,784
O119	27,811	20,075	1,087	1,859	7,159	323	58,314
O123	125,250	55,740	141,000	29,946	54,746	5,601	412,283
O124	46,513	42,262	26,316	6,927	51,203	1,230	174,451
O127	3,696	1,075	51	0	331	35	5,188
O132 Univ. of York	30,153	21,376	25,635	1,753	23,713	909	103,539
total	2,498,513	1,520,507	1,666,170	336,239	1,178,307	209,055	7,408,791

表 8. 高等教育カレッジ (Higher Education Colleges)

	Funding council grants	Tuition fees & education grants & contracts	Research grants & contracts	Other income- other services rendered	Other income- other	Endowment & investment income	Total income
Hecollege Hull9	2,955	1,007	0	121	684	159	4,926
Hecollege Own degree10	17,144	6,225	623	1,584	2,118	102	27,796
HEC13	10,242	2,544	77	278	2,582	9	15,732
HEC30	2,368	491	0	0	127	125	3,111
HEC36	14,897	9,901	258	185	3,349	250	28,840
HEC39	5,093	2,232	32	314	1,034	90	8,795
HEC45	5,209	1,519	419	0	8,490	556	16,193
HEC49	1,468	397	444	476	5,458	148	8,391
HEC53	7,648	3,891	32	0	2,861	62	14,494
HEC54	8,453	4,693	99	95	4,534	107	17,981
HEC62	14,442	5,181	144	5,388	4,233	21	29,409
HEC68	45,593	30,010	979	385	5,265	1,242	83,474
HEC78	3,966	1,224	17	0	1,139	42	6,388
HEC81	1,081	154	0	0	137	15	1,387
HEC83	3,111	858	0	140	336	100	4,545
HEC92	3,777	1,723	0	10	813	63	6,386
HEC95	2,716	1,215	0	182	0	57	4,170
HEC100	4,398	1,571	0	0	2,788	127	8,884
HEC103	7,571	3,844	33	1,376	1,634	239	14,697
HEC104	15,686	13,053	33	0	5,060	31	33,863
HEC105	7,790	3,408	57	36	3,090	39	14,420
HEC112	28,510	15,275	404	670	9,042	669	54,570
HEC121	6,240	2,774	0	19	2,097	299	11,429
HEC122	2,945	1,400	0	0	1,115	46	5,506
HEC130	7,632	2,231	22	0	3,793	23	13,701
HEC131	9,562	6,515	84	261	4,216	313	20,951
total	240,497	123,336	3,757	11,520	75,995	4,934	460,039

表9. 新大学 (New Universities)

	Funding council grants	Tuition fees & education grants & contracts	Research grants & contracts	Other income—other services rendered	Other income—other	Endowment & investment income	Total income
N3	36,585	26,222	2,838	6,875	7,799	1,095	81,414
N5	12,622	4,314	223	0	3,077	95	20,331
N11	21,939	20,872	870	2,054	5,638	488	51,861
N14	35,193	26,820	4,211	3,695	6,932	933	77,784
N17	17,213	11,888	1,100	2,390	8,559	444	41,594
N20	16,380	16,372	575	4,714	7,050	102	45,193
N21	41,455	31,031	2,879	5,891	7,664	338	89,258
N22	46,804	27,855	1,739	3,453	12,225	490	92,566
University College Chichester	10,019	4,038	151	0	2,770	158	17,136
N27	40,371	27,193	2,504	3,084	10,531	637	84,320
N31	63,791	31,494	8,818	6,439	7,307	537	118,386
N32	31,029	16,472	839	4,271	2,780	77	55,468
N35	34,861	18,687	1,357	2,617	8,014	358	65,894
N40	20,393	8,767	804	1,221	5,801	483	37,469
N42	44,537	27,520	7,560	9,094	8,217	1,082	98,010
N44	44,519	33,191	3,373	7,064	11,504	1,194	100,845
N46	35,122	14,608	2,191	2,929	17,874	947	73,671
N56	38,555	27,196	1,672	6,442	7,864	1,404	83,133
N58	52,346	25,539	1,376	5,079	7,916	535	92,791
N61	32,126	12,695	728	1,685	5,464	237	52,935
N63	53,785	25,537	3,466	5,624	10,202	659	99,273
N72	22,875	18,211	752	2,347	4,785	63	49,033
N74	34,634	21,517	23,722	8,290	13,776	2,150	104,089
N75	78,382	30,584	4,979	4,333	12,887	1,704	132,869
N76	49,011	41,390	2,468	5,154	15,355	290	113,668
N79	36,418	17,150	3,109	2,231	5,354	93	64,355
N80	20,770	12,539	1,106	1,445	4,754	443	41,057
N82	45,675	39,803	3,774	3,941	6,334	142	99,669
N84	60,320	29,029	3,143	9,816	10,761	1,095	114,164
N87	32,208	30,761	4,172	2,129	17,851	387	87,508
N89	54,110	26,237	7,088	3,372	11,079	862	102,748
N90	43,974	25,400	4,244	3,072	7,726	762	85,178
O99	21,600	13,099	7,748	1,006	14,052	1,859	59,364
N109	60,278	30,720	6,790	6,440	9,289	686	114,203
N111	45,301	35,639	6,039	773	9,058	1,686	98,496
N114	39,770	19,019	3,396	2,069	6,443	346	71,043
N116	10,098	4,145	0	148	2,054	69	16,514
N120	24,651	25,214	280	2,597	1,561	424	54,727
N125	49,468	23,130	3,559	2,622	25,819	2,833	107,431
N126	46,904	32,030	4,036	5,195	5,650	1,240	95,055
N128	45,382	24,395	2,318	7,324	8,363	2,470	90,252
N129	9,401	7,199	460	119	1,818	63	19,060
total	1,560,875	945,522	142,457	159,044	359,957	31,960	3,199,815

出典：HESA. *Resources of Higher Education Institutions 2000/01*. Cheltenham: HESA, 2002.